2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●	●	●

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	看護学概論			担当講師	皆川佳代子・澁川悦子		
分　野	専門	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1単位	時　間	30 時間	学　年	1年次	学　期	前期
概　要	24時間を繰り返しながら生活する人間の「からだ」と「こころ」を学生自身のからだや生活を振り返ることによって理解する。そして人間の健康状態はどのようにつくられるのかを理解し、健康が障害されるとどのような健康問題が生じるのか考えを発展させる。そして、人間を対象として行う看護とは何か、看護サービスを提供する仕組みや看護職の役割・機能・活動について理解するとともに援助者として必要な倫理について学ぶ。さらに、看護の基盤となる看護理論を学ぶ。						
到達目標	1. 看護とは何かを考えるとともに、看護の役割と機能が説明できる。 2. 看護学の主要概念（人間・健康・環境・看護・学習）が説明できる。 3. 看護の対象となる人間のこころと身体を理解し、健康状態を作り出す生活を説明できる。 4. 看護の歴史を学び、看護職の変遷と現状を理解するとともに今後の課題について考える。 5. 看護サービスの提供の仕組みについて理解する。 6. 看護の基盤となる看護理論を理解する。						

回	主題	内　容	学習方法
1	看護の本質	「看護とは」看護の定義、看護の変遷（調べ学習）	講義・演習
2	看護の役割と機能	看護に対する社会の要望と期待、看護職の位置づけ	講　義
3	看護の継続性と情報共有	看護職間および多職種間との連携と協働、チームでの活動	講　義
4	看護の対象の理解	看護の対象の捉え方　対象との関係の形成	講　義
5	国民の健康・生活の全体像の把握（１）	健康、生活、健康のとらえ方（メタパラダイムに関する学習）	講義・演習
6	国民の健康・生活の全体像の把握（２）	ライフサイクルと健康	講義・演習
7	看護の提供者	職業としての看護と看護職制度の現状 看護職の発展と今後の課題	講　義
8	看護における倫理（１）	倫理とは　基本的人権、個人の尊厳、医療倫理原則（ICT）	講義・演習
9	看護における倫理（２）	患者の権利擁護、看護者の倫理綱領、倫理的葛藤（ジレンマ）と対応	講義・演習
10	看護のサービス提供の仕組み	看護の場に応じた活動 （在宅、医療施設、保健・福祉施設） 保健・医療・福祉の連携を支える仕組み	講　義
11	看護理論（１）	理論の発達背景	講　義
12	看護理論（２）	ナイチンゲールの看護理論、ヘンダーソンの看護理論	講義・演習
13	看護理論（３）	主な看護理論	講義・演習
14	看護理論（４）	主な看護理論	講義・演習
15	まとめ／終講試験／解答・解説		講　義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座　専門分野 基礎看護学①「看護学概論」　　医学書院
参考書	講義の中で指示をする

備　考	＊教科書を事前に読み予習しておく。講義後の内容は整理し復習しておく。

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●	●	●

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	基礎看護学援助論Ⅰ			担当講師	渡邊まどか		
分　野	専門	授業方法	演習	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1単位	時　間	30 時間	学　年	1年次	学　期	前期
概　要	看護基礎技術は、対象の理解と看護実践の基礎となる技術を習得する内容であり、看護の対象を生活者として捉え、援助する技術を身につける。また、臨地の場では、専門的知識だけでなく、第一印象を求められている。社会人・医療人としての基本的な考え方や姿勢を認識することは大切である。本科目では、医療人としての接遇・マナーを学習し心のこもった立ち振る舞いができるよう学ぶ。また、人間関係構築の基本となる看護におけるコミュニケーション、看護実践の証明となる看護記録、対象の自立を支援するための学習支援を習得する。						
到達目標	1. 挨拶の方法や表情・笑顔の作り方を理解する。 2. ＴＰＯに合わせた言葉遣いができる。 3. 患者の質問に対して適切な対応の方法を理解できる。 4. 看護におけるコミュニケーション技術が実施できる。 5. 看護記録の意義と目的、記録の方法が述べられる。 6. 対象の自立を促す援助としての学習支援の意義と目的を理解し、看護における学習支援の特徴が述べられる。						

回	主 題	内　容	学習方法
1	社会人としての心構え	社会人基礎力からの考え方	講　義
2	基本的接遇・マナー（１）	挨拶、身だしなみ、就業中のマナー	講義・演習
3	基本的接遇・マナー（２）	言葉遣い、お辞儀	講義・演習
4	基本的接遇・マナー（３）	好感の持たれる態度、表情	講義・演習
5	基本的接遇・マナー（４）	電話対応の基本	講義・演習
6	医療職としてのマナー	医療人として守るべきこと、クレーム対応	講義・演習
7	ビジネス文書	ビジネス文書の書き方	講義・演習
8	看護技術とは	看護技術の特徴・適切に実施するための要素	講　義
9	コミュニケーション技術（１）	看護におけるコミュニケーションの意義と目的・成立過程	講　義
10	コミュニケーション技術（２）	関係構築のための効果的なコミュニケーション コミュニケーション障害のある人への対応	講義・演習
11	看護記録（１）	看護記録の目的　看護記録に関する法的規定 看護記録の原則、 看護記録記載時の注意点、 看護記録の監査、看護記録の管理	講　義
12	看護記録（２）	看護における報告 連絡 相談	講義・演習
13	学習支援（１）	看護における教育的支援 対象者に合わせた目標設定	講　義
14	学習支援（２）	看護における指導技術　支援方法と媒体の工夫	講義・演習
15	まとめ・終講試験／解答・解説		講　義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座　専門分野　基礎看護学「基礎看護技術Ⅰ」　医学書院
参考書	講義の中で指示をする
備　考	＊教科書を事前に読み予習しておく。講義後の内容は整理し復習しておく。

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●	●	●

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	基礎看護学援助論Ⅱ			担当講師	湯浅みゆき		
分　野	専門	授業方法	演習	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1単位	時　間	15 時間	学　年	1年次	学　期	前期
概　要	看護基礎技術は、対象の理解と看護実践の基礎となる技術を習得する内容であり、看護の対象を生活者として捉え、援助する技術を身につける。本科目では、看護行為を行う基本となる安全を守る技術として感染予防の技術を習得する。						
到達目標	1. 感染防止の基礎知識としてスタンダードプリコーションの定義を述べられる。 2. 感染防止策（感染経路別予防策）の技術を習得する。 3. 無菌操作、感染性廃棄物の安全な取り扱いを習得する。						

回	主 題	内　容	学習方法
1	感染と感染症	感染症を成立させる要素と成立過程 感染予防の三原則／感染予防策（スタンダードプリコーション）	講義・演習
2	感染予防策（感染経路別予防策）	洗浄・消毒・滅菌	講　義
3	手指衛生の実際	衛生学的手洗い 手指消毒　個人防護用具の着脱	講義・演習
4	無菌操作	滅菌物の保管／滅菌物の取り扱い ／感染性廃棄物の取り扱い	講　義
5	無菌操作の実際	滅菌物／消毒綿球の受け渡し／滅菌手袋、滅菌ガウンの着脱	演　習
6	技術の振り返り（評価含む）	衛生学的手洗い・個人防護具の着脱	演　習
7			
8	まとめ・終講試験／解答・解説		講　義

評価方法	客観試験（　　点）・技術評価（　　点）
教科書	系統看護学講座　専門分野　基礎看護学「基礎看護技術Ⅰ」　医学書院 根拠と事故防止から見た「基礎・臨床看護技術」　医学書院
参考書	講義の中で指示をする
備　考	＊教科書を事前に読み予習しておく。講義後の内容は整理し復習しておく。

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●	●	●

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	基礎看護学援助論Ⅲ			担当講師	澁川悦子		
分　野	専門	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1単位	時　間	30 時間	学　年	1年次	学　期	後期
概　要	看護は科学的根拠に基づく、系統的思考プロセスである。本科目では「看護理論」で学んだ理論をもとに、看護を科学的に展開するための思考プロセスを学ぶ。そして各看護学において、対象別の看護過程として展開させていく。						
到達目標	1. 看護の系統的思考プロセスである看護過程の必要性を理解する。 2. 看護過程の各段階を理解する。 3. 看護においてなぜクリティカルシンキングの必要性を理解する。 4. 看護過程の展開方法を理解する。						

回	主 題	内　容	学習方法
1	看護実践における看護過程	（看護過程とは／看護過程の5つの構成要素／構成要素間の関連／看護過程で実践することの意義）	講　義
2	看護過程展開の基盤となる考え方	（問題思考過程／クリティカルシンキング／倫理的配慮と価値判断／リフレクション）	講　義
3			
4	看護過程の各段階（１）	アセスメント（情報の収集と分析）	講義・演習
5	看護過程の各段階（２）	看護問題の明確化 （看護診断／看護問題の見極め／看護診断とは／NANDA-1・看護診断分類法Ⅱ領域と類／NIC・NOC／看護診断の種類／看護診断の表記方法／看護問題の優先順位／共同問題）	講義・演習
6			
7			
8	看護過程の各段階（３）	期待される成果	講義・演習
9	看護過程の各段階（４）	看護計画の立案／実施と評価	講義・演習
10	看護記録と構成	POSとSOAP形式　看護記録の構成要素	講義・演習
11	看護過程の活用	事例を用いた看護展開	講義・演習
12			
13			講義・演習
14			
15	まとめ・終講試験／解答・解説		演　習

評価方法	客観試験（　　点）・課題レポート（　　点）
教科書	系統看護学講座　専門分野　基礎看護学「基礎看護技術Ⅰ」　医学書院 看護が見える④看護過程の展開　第1版　メディクメディア
参考書	NIC、NOC NANDA-Ⅰ看護診断　医学書院
備　考	＊教科書を事前に読み予習しておく。講義後の内容は整理し復習しておく。

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●		●

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	基礎看護学援助論Ⅳ			担当講師	楠山美由紀・渡邊まどか		
分　野	専門	授業方法	演習	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1単位	時　間	30 時間	学　年	1年次	学　期	前期
概　要	看護基礎技術は、対象の理解と看護実践の基礎となる技術を習得する内容であり、看護の対象を生活者として捉え、援助する技術を身につける。本科目では、倫理的配慮に基づいて安全安楽な療養生活を送るための日常生活の援助技術を習得する。						
到達目標	1. 人間にとっての環境の意味を理解し、生活環境を整えるための知識と援助方法を習得する。 2. 療養生活の安全を脅かす要因を理解し、安全管理の援助技術を習得する。 3. 活動と休息の意義と必要性を理解する。 4. 活動範囲が狭まることで生じる危険や身体的・心理的苦痛を理解し、安全・安楽・自立を考慮した体位および体位変換・移動動作の技術を習得する。						

回	主 題	内　容	学習方法
1	環境調整技術（１）	療養生活の環境　　病室の環境調整・療養生活の安全確保	講　義
2	環境調整技術（２）	ベッド周囲の環境整備の実際	講義・演習
3	環境調整技術（３）	病床の作り方 ベッドメーキング・リネン交換	講　義
4	環境調整技術（４）	ベッドメイキング・リネン交換の実際	演　習
5			
6	環境調整技術（５）	臥床患者のリネン交換	演　習
7	活動・休息援助技術（１）	基本的な活動・休息の援助について 人間における活動と休息 活動に対する看護の役割・ボディメカニクス	講　義
8	活動・休息援助技術（２）	体位変換 水平移動　　仰臥位から側臥位への移動 ポジショニング　安楽な体位 仰臥位ー長座位ー端座位への体位変換	講　義
9	活動・休息援助技術（３）	体位変換の実際 水平移動　　仰臥位から側臥位への移動 ポジショニング　安楽な体位 仰臥位ー長座位ー端座位への体位変換	演　習
10	活動・休息援助技術（４）	移動・移乗・移送：車椅子、ストレッチャー	講　義
11	移動の実際	車椅子の点検／ベッドから車椅子への移動・移乗 移動・移乗・移送の実際（車椅子／ストレッチャー／歩行介助）	演　習
12			
13	技術の振り返り（評価含む）	臥床患者のベッドメイキング 車椅子の移乗・移送	演　習
14			
15	まとめ・終講試験／解答・解説		講　義

評価方法	客観試験（　　点）・技術評価（　　点）
教科書	系統看護学講座　専門分野　基礎看護学「基礎看護技術Ⅱ」　　医学書院 根拠と事故防止から見た「基礎・臨床看護技術」　　医学書院
参考書	講義の中で指示をする

備　考	＊教科書を事前に読み予習しておく。講義後の内容は整理し復習しておく。

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●		●

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	基礎看護学援助論Ⅴ			担当講師	楠山美由紀		
分　野	専門	授業方法	演習	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1単位	時　間	30 時間	学　年	1年次	学　期	前期
概　要	基礎看護学技術は対象の理解と看護実践の基礎となる技術を習得する内容であり、看護の対象を生活者として捉え、援助する技術を身につける。本科目では、対象を理解する第一歩である人間関係成のためのコミュニケーション技術を習得する。日常生活行動である食事・排泄行動を理解し、自立が脅かされたときの身体的・心理的苦痛からの倫理的配慮に基づいた食事・排泄の援助技術を習得する。						
到達目標	1. 食事の意義を理解し、栄養のアセスメントおよび食事援助の技術を習得する。 2. 排泄の意義を理解し、排泄の援助技術を習得する。						

回	主 題	内　容	学習方法
1	食事援助技術（１）	日常生活における食事の意義 栄養状態および摂食能力のアセスメント	講　義
2	食事援助技術（２）	日常生活における食事の援助 非経口的栄養摂取の援助	講義・演習
3	食事援助技術（３）	食事援助の実際　　食事介助	演　習
4	排泄援助技術（１）	排泄の意義・排泄援助の基礎知識 自然排泄の援助	講　義
7	排泄援助技術（２）	トイレ排泄（ポータブルトイレ含む）・床上排泄（便器・尿器）・オムツ排泄の基礎知識	講　義
5	排泄援助技術（３）	トイレ排泄（ポータブルトイレ含む）・床上排泄（便器・尿器）の実際	講　義
6			演　習
8	排泄援助技術（４）	オムツ排泄の実際	演　習
9	排泄援助技術（５）	一時的導尿・持続的導尿の基礎知識	講　義
10	排泄援助技術（６）	排便を促す援助　浣腸・摘便	講　義
11	排泄援助技術（７）	便秘に対するケアとグリセリン浣腸の実際	演　習
12			
13	技術の振り返り（評価含む）	排泄援助技術（ポータブルトイレ・便器・尿器・おむつ交換）の評価・振り返り	演　習
14			
15	まとめ・終講試験／解答・解説		講　義

評価方法	客観試験（　　点）・技術評価（　　点）
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　　医学書院 根拠と事故防止から見た「基礎・臨床看護技術」　　医学書院
参考書	講義の中で指示をする
備　考	＊教科書を事前に読み予習しておく。講義後の内容は整理し復習しておく。

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●		●

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	基礎看護学援助論Ⅵ			担当講師	根本弘美		
分　野	専門	授業方法	演習	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1単位	時　間	30 時間	学　年	1年次	学　期	前期
概　要	看護基礎技術は、対象の理解と看護実践の基礎となる技術を習得する内容であり、看護の対象を生活者として捉え、援助する技術を身につける。本科目では、清潔・衣生活の人間の日常生活行動について理解し、対象のニーズの充足のための日常生活援助技術を習得する。						
到達目標	1. 衣生活の意義を理解し、衣類を整える技術を習得する。 2. 清潔の意義と援助の必要性を理解し、身体の清潔を保持し安楽を高める技術を習得する。						

回	主 題	内　容	学習方法
1	清潔・衣生活（１）	清潔・衣生活の意義 皮膚・粘膜の構造と機能 清潔援助　目的・清潔行動のアセスメント 援助方法の判断 援助方法の種類と特徴	講　義
2	清潔・衣生活（２）	入浴 全身清拭 目的・留意点と根拠 入浴の種類と方法 全身清拭の種類と方法	講義・演習
3	清潔・衣生活（３）	寝衣交換の実際	講義・演習
4 5	清潔・衣生活（４）	臥床患者の清拭の実際	演　習
6	清潔・衣生活（５）	手浴・足浴・陰部洗浄　目的・留意点と根拠 手浴・足浴の種類と方法 陰部洗浄の種類と方法	講　義
7 8	清潔・衣生活（６）	臥床患者の足浴の実際／端座位での足浴の実際	演　習
9	清潔・衣生活（７）	洗髪　洗髪の目的・留意点と根拠 種類と方法	講　義
10 11	清潔・衣生活（８）	洗髪の実際	演　習
12	口腔ケア・整容	口腔ケア・整容の目的・留意点と根拠 種類と方法　臥床患者の口腔ケアの実際	講義・演習
13 14	技術の振り返り（評価含む）	清拭・寝衣交換・足浴	演　習
15	まとめ・終講試験／解答・解説		講　義

評価方法	客観試験（　　点）・技術評価（　　点）
教科書	系統看護学講座　専門分野　基礎看護学「基礎看護技術Ⅱ」　医学書院 根拠と事故防止から見た「基礎・臨床看護技術」　医学書院
参考書	講義の中で指示をする
備　考	＊教科書を事前に読み予習しておく。講義後の内容は整理し復習しておく。

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●		●

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	基礎看護学援助論Ⅶ			担当講師	皆川佳代子		
分　野	専門	授業方法	演習	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1単位	時　間	30 時間	学　年	1年次	学　期	後期
概　要	看護基礎技術は、対象の理解と看護実践の基礎となる技術を習得する内容であり、看護の対象を生活者として捉え、援助する技術を身につける。本科目では、対象を理解する第一歩である人間関係成立のためのコミュニケーション技術と観察・フィジカルアセスメント技術を習得する。観察から得た情報から正しく評価し、臨床判断の基盤とする。						
到達目標	1. ヘルスアセスメントおよびフィジカルアセスメントの意義を理解し、基本的な技術を習得する。 2. フィジカルアセスメント技術とそれによって得られる客観的データについて理解する。 3. 身体各部の形態や身体機能を正しく測定、評価する技術を習得する。						

回	主 題	内　容	学習方法
1	ヘルスアセスメント	ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメント フィジカルアセスメントの基本技術（問診 視診 触診 打診 聴診）	講　義
2	身体計測	身長・体重・胸囲・腹囲・視力・聴力など	講義・演習
3	フィジカルアセスメント（１）	消化器系のフィジカルアセスメント	講　義
4	フィジカルアセスメント（２）	消化器系のフィジカルアセスメント実際	講　義
5	バイタルサイン（１）	バイタルサインのアセスメント（１）意識・体温	講義・演習
6	フィジカルアセスメント（３）	感覚・脳神経・運動系のフィジカルアセスメント	講義・演習
7	バイタルサイン（２）	バイタルサインのアセスメント（２）脈拍	講義・演習
8	バイタルサイン（３）	バイタルサインのアセスメント（３）呼吸	講　義
9	フィジカルアセスメント（４）	呼吸器系のフィジカルアセスメント実際	講義・演習
10	フィジカルアセスメント（５）	バイタルサインのアセスメント（４）血圧	講義・演習
11	バイタルサイン（４）	バイタルサインの測定の実際	演　習
12	バイタルサイン（５）	循環器系のフィジカルアセスメント実際	講義・演習
13	技術の振り返り（評価含む）	バイタルサイン測定	演　習
14	技術の振り返り（評価含む）	バイタルサイン測定	演　習
15	まとめ・終講試験／解答・解説		講　義

評価方法	客観試験（　８０　点）・技術評価（　２０　点）
教科書	系統看護学講座　専門分野　基礎看護学「基礎看護技術Ⅰ」　医学書院 「フィジカルアセスメントガイドブック」　医学書院
参考書	講義の中で指示をする
備　考	＊教科書を事前に読み予習しておく。講義後の内容は整理し復習しておく。

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●		●

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	臨床看護技術Ⅰ			担当講師	根本弘美		
分　野	専門	授業方法	演習	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1 単位	時　間	30 時間	学　年	1年次	学　期	後期
概　要	臨床とは、医療を求める人に対して医療行為を行う場である。 臨床看護技術は、臨床の場で多く使用される医療機器の原理と取り扱いおよび安全・安楽を基盤とした看護実践に必要な知識・技術を習得する。						
到達目標	1. 検査・処置を安全・安楽に実施するために必要な知識・技術を取得する 2. 生体侵襲を伴う検査や処置が生体に与える影響を理解し、安全・安楽に看護技術を行うための観察点および留意点を説明する。 3. 使用する医療機器の原理を理解し安全に取り扱うことができる。						

回	主 題	内　容	学習方法
1	検査・処置における技術	検査・処置における看護師の役割	講　義
2	生体機能管理技術	検体検査　　血液・尿・便・喀痰	講義・演習
3		穿刺(胸腔・腹腔・腰椎・骨髄)	講義・演習
4		内視鏡（上部消化管・下部消化管）	講義・演習
5		生体検査 (X-P・超音波・脳波・CT・MRI・シンチ)	講義・演習
6		心電図の基礎知識	講　義
7		心電図の実際と看護	演　習
8	救命救急処置技術	急変時の対応　・救急対応のアルゴリズム	講　義
9		一次救命処置（ＢＬＳ）の基礎知識	講　義
10		一次救命処置（ＢＬＳ）の実際	演　習
11			
12		二次救命処置（ＡＣＬＳ）・止血法の基礎知識	講義・演習
13	人工呼吸器装着中の患者の看護	人工呼吸器の基礎知識	講　義
14		人工呼吸器装着中の患者の看護	演　習
15	まとめ・終講試験／解答・解説		講　義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ　医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学④　臨床看護総論　医学書院 根拠と事故防止から見た「基礎・臨床看護技術」　医学書院
参考書	講義の中で指示をする
備　考	＊教科書を事前に読み予習しておく。講義後の内容は整理し復習しておく。

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●		●

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	臨床看護技術Ⅱ			担当講師	渡邊まどか		
分　野	専門	授業方法	演習	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1単位	時　間	30 時間	学　年	1年次	学　期	後期
概　要	臨床とは、医療を求める人に対して医療行為を行う場である。 臨床看護技術は、臨床の場で多く使用される医療機器の原理と取り扱いおよび安全・安楽を基盤とした看護実践に必要な知識・技術を習得する。						
到達目標	1. 処置を安全・安楽に実施するために必要な知識・技術を習得する。 2. 創傷管理、呼吸・循環を整える技術、安楽確保における看護技術の観察点および留意点を説明する。 3. 使用する医療機器の原理を理解し安全に取り扱うことができる。						

回	主 題	内　容	学習方法
1	処置における技術	処置における看護師役割	講　義
2	創傷管理技術	創傷管理の基礎知識	講義
3		創傷処置	
4		包帯法	講義・演習
5	呼吸を整える技術	酸素吸入療法の基礎知識	講　義
6		酸素吸入療法の実際	演　習
7		体位ドレナージ・呼吸介助・排痰ケアの実際	講義・演習
8		口腔・鼻腔吸引、 気管内吸引の基礎知識 吸入・胸腔ドレーン	講　義
9			
10		口腔・鼻腔吸引の実際	演　習
11	循環を整える技術	体温管理の基礎知識・末梢循環促進ケア	講義・演習
12	苦痛の緩和・安楽確保の技術	温罨法・冷罨法、リラクゼーション法の実際	
13	技術の振り返り（評価含む）	口腔・鼻腔吸引	演　習
14			
15	まとめ・終講試験／解答・解説		講　義

評価方法	客観試験（　　点）・技術評価（　　点）
教科書	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ　医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学④　臨床看護総論　医学書院 根拠と事故防止から見た「基礎・臨床看護技術」　医学書院
参考書	講義の中で指示をする
備　考	＊教科書を事前に読み予習しておく。講義後の内容は整理し復習しておく。

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●	●	●

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	臨床看護技術Ⅲ			担当講師	根本弘美・船橋悦子		
分　野	専門	授業方法	演習	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1単位	時　間	30 時間	学　年	2年次	学　期	前期
概　要	臨床とは、医療を求める人に対して医療行為を行う場である。 臨床看護技術は、臨床の場で多く使用される医療機器の原理と取り扱いおよび安全・安楽を基盤とした看護実践に必要な知識・技術を習得する。						
到達目標	1. 治療別看護を安全・安楽に行うために必要な知識を習得する。 2. 薬物療法・放射線療法における有害事象・宿酔を理解し治療が身体に及ぼす影響を理解する。 3. 使用する医療機器の原理を理解し安全に取り扱うことができる						

回	主 題	内　容	学習方法
1	与薬の技術	与薬の基礎知識・看護師の役割	講　義
2		剤型と与薬方法・物品の取り扱い	講　義
3		投与方法の実際（１）経口・口腔内	講義・演習
4		投与方法の実際（２）吸入・点眼・点鼻	講義・演習
5		投与方法の実際（３）経皮的与薬・直腸内与薬	講義・演習
6		投与方法の実際（４）注射（皮下・皮内・筋肉内）	講義・演習
7		投与方法の実際（５）点滴静脈内注射	講義・演習
8		点滴管理の実際（１）滴下数の計算	講義・演習
9		点滴管理の実際（２）輸液・シリンジポンプの取り扱い	講義・演習
10	化学療法を受ける患者の看護	化学療法の基礎知識	講　義
11		看護の実際	講義・演習
12	輸血療法を受ける患者の看護	輸血の種類と取り扱い・看護の実際	講義・演習
13	放射線療法を受ける患者の看護	放射線療法の基礎知識	講　義
14		看護の実際	講義・演習
15	まとめ・終講試験／解答・解説		講　義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護学④　臨床看護総論　医学書院 根拠と事故防止から見た「基礎・臨床看護技術」　医学書院
参考書	講義の中で指示をする
備　考	＊教科書を事前に読み予習しておく。講義後の内容は整理し復習しておく。

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●	●	

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	地域で暮らす人の理解			担当講師	湯浅みゆき		
分　野	専門	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1単位	時　間	15 時間	学　年	1年次	学　期	後期
概　要	地域看護の対象となる個人・家族・集団・コミュニティ（地域）を理解するため「水高スクエア」内で生活する人々・施設を対象としたフィールドワークを行う。そのため、地域の歴史、文化、自然・地理的環境、コミュニティ（地域）を把握し、地域社会の制度や施設を関連づけて、包括的な視点で地域を捉えることを体験を通して学ぶ。そして、地域看護の主要概念であるヘルスプロモーション、エンパワメント、地域包括ケアシステムなどの基本的な知識と関連づけ、水高スクエア内の人々のライフサイクルや健康レベルについて考える。また、疾病予防や健康を保持する活動から、地域で生活を営む人々の健康観について考え、地域で生活する人々の健康を支援するために必要な基盤的知識を生活者の視点から学ぶ。						
到達目標	1. 人々の生活の場としての「地域」をフィールドワークを通して説明する。 2. 地域で生活する人々の生活と健康を支える視点を自助・互助・共助・公助と関連づけて述べる。 3. 地域で暮らす人々の健康ニーズを様々な健康レベルから説明する。 4. ライフサイクルに応じた疾病予防と健康保持の意義を述べる。 5. 看護学生として自己の健康観を述べる。						

回	主題	内　容	学習方法
1	地域における暮らしと健康	地域に暮らす人々のアセスメント、地域社会の制度・施設	講義・演習
2	地域で暮らす人々の暮らしと生活上のニーズ	地域特性（リサーチ）・地域地図作成 住みよい町	講義・演習
3			
4	地域の人々のライフステージとさまざまな健康観	水高スクエア内の各施設訪問インタビュー・外来インタビュー	演　習
5			
6			
7	地域包括ケアシステムにおける生活者の暮らしと健康ニーズ	各施設紹介、各施設利用者のライフサイクル、健康レベル、健康観、健康課題	演　習
8			

評価方法	パフォーマンス評価（ルーブリック）、講義・演習の態度・参加状況も含む
教科書	系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論「地域・在宅看護の基盤」　医学書院
参考書	系統看護学講座　専門分野　基礎看護学１「看護学概論」　医学書院 系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度[3]「社会保障・社会福祉」　医学書院
備　考	＊教科書を事前に読み予習しておく。演習・フィールドワーク後のワークシートの内容は整理し復習しておく。

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●	●	●

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	地域・在宅看護概論			担当講師	湯浅みゆき・桒原久美子		
分　野	専門	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1単位	時　間	30 時間	学　年	2年次	学　期	前期
概　要	地域・在宅看護論では、地域で暮らすあらゆる健康レベルの人々に対し、環境と健康課題を包括的な視点からとらえ、地域で療養する人々とその家族の「生活の場」を整える看護が求められる。そこで、本科目では、在宅看護の変遷やその社会背景をはじめ、在宅看護の目的・基本的な理念や関連する概念を学ぶ。また、地域包括システムにおける医療・保健・福祉に関する制度や在宅ケアシステムへの理解を深め、地域で療養する人々が自らの意思によって多様な選択肢からその人の望む生活を選択できる看護のあり方や訪問看護制度について学ぶ。さらに、地域包括ケアシステムにおける関係機関・職種との連携の必要性について考え、社会資源とその活用方法について学ぶ。						
到達目標	1. 地域・在宅看護の目的と基本理念、関連する概念について理解する。 2. 地域・在宅看護の対象者とその家族の特性とその支援の基本を理解する。 3. 地域・在宅療養を支える制度と社会資源について理解する。 4. 地域包括ケアシステムにおけるチームマネジメント、関係機関・職種との連携について理解する。 5. 地域在宅システムにおける訪問看護制度の基本を理解する。						

回	主題	内　容	学習方法
1	在宅看護の目的と特徴	地域・在宅看護の特性と目ざすもの 在宅看護における看護の役割	講　義
2	在宅看護の対象者	対象者の特徴と療養環境の成立	講　義
3	在宅看護における看護師の倫理	在宅療養者の権利 訪問看護師の倫理的ジレンマ	講義・演習
4	在宅療養者と家族への支援	家族システムと家族のアセスメント 家族看護の視点 家族に関する理論	講　義
5	継続看護（１）	外来看護と退院支援・退院調整	講　義
6	継続看護（２）	退院調整の実際（MSW・退院支援ナース）	講義・演習
7	地域療養を支える制度と社会資源	在宅看護に関わる法令・制度とその活用	講　義
8	地域包括ケアシステムにおける在宅看護（１）	地域包括ケアシステム 地域包括支援センター	講　義
9	地域包括ケアシステムにおける在宅看護（２）	療養の場の移行に伴う看護 多職種・多機関連携	講　義
10	地域包括ケアシステムにおける在宅看護（３）　～事例～	在宅ケースマネジメント 在宅ケアマネジメント	講義・演習
11	地域共生社会（地域で行われている認知症の人を支える活動）	認知症地域支援推進員の役割と活動	講義・演習
12	在宅療養を支える訪問看護（１）	訪問看護の特徴 訪問看護ステーション	講　義
13	在宅療養を支える訪問看護（２）	訪問看護サービスの展開 訪問看護の記録	講　義
14	在宅看護管理	訪問看護ステーションの事業運営 安全管理・看護の質の管理	講　義
15	まとめ・終講試験／解答・解説		講　義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座　地域・在宅看護論「地域・在宅看護の基盤」　医学書院 系統看護学講座　地域・在宅看護論「地域・在宅看護の実践」　医学書院
参考書	ナーシング・グラフィカ　在宅看護論①　在宅療養を支えるケア　メディカ出版 事例で考える「訪問看護の倫理」　日本看護協会出版会 家族看護学　家族のエンパワーメントを支えるケア　メディカ出版

備　考	＊教科書を事前に読み予習しておく。講義後の内容は整理し復習しておく。

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●	●	

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	地域・在宅看護援助論Ⅰ			担当講師	小坂宣靖		
分　野	専門	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1単位	時　間	30 時間	学　年	2年次	学　期	前期
概　要	在宅療養者は、何らかの健康課題をもちながら自宅で療養している。その人らしい生活スタイルを損なわず、療養者とその家族がより良い方向で自立・自律していくことを支援するため、在宅におけるさまざまな状態に応じた看護援助を学ぶ必要がある。本科目では、在宅看護の特徴的な事例を提示し、事例に必要な在宅ケアシステムとは何か考え、在宅療養者とその家族への看護援助や社会資源の活用方法にて学ぶ。						
到達目標	1. 在宅における療養者とその家族の生活上の課題を理解する。 2. 在宅療養者とその家族の状況に応じた生活支援や医療管理の方法を理解する。 3. 在宅療養者のさまざまな状態に応じた看護とその家族（介護者）の看護を理解する。 4. 療養者とその家族が望む在宅療養生活を実現するための在宅ケアシステムについて理解する。						

回	主題	内　容	学習方法
1	在宅看護と要介護高齢者ケア（１）	長期臥床状態にある高齢者と その家族への看護	講　義
2	在宅看護と要介護高齢者ケア（２）	脳梗塞後遺症により長期臥床状態にある 療養者の在宅看護の事例	演　習
3	認知症をもつ療養者と その家族への看護（１）	在宅看護における認知症ケア	講　義
4	認知症をもつ療養者と その家族への看護（２）	認知症の療養者に対する 在宅看護の事例	演　習
5	身体的な障害をもつ療養者と その家族への看護（１）	呼吸器障害における在宅医療ケア（HOT）	講　義
6	身体的な障害をもつ療養者と その家族への看護（２）	COPD患者の在宅療養導入事例	演　習
7	精神疾患を持つ療養者と その家族への看護（１）	在宅看護における精神障害者ケア	講　義
8	精神疾患を持つ療養者と その家族への看護（２）	統合失調症の療養者に対する 在宅看護の事例	演　習
9	地域で療養する子どもと その家族への看護（１）	在宅看護における重症心身児ケア	講　義
10	地域で療養する子どもと その家族への看護（２）	脳性麻痺をもった小児への 在宅看護の事例	演　習
11	慢性疾患をもつ療養者と その家族への看護（１）	在宅看護における透析ケア	講　義
12	慢性疾患をもつ療養者と その家族への看護（２）	腎不全により腹膜透析を行っている 在宅看護の事例	演　習
13	難病をもつ療養者と その家族への看護（１）	在宅看護における難病ケア	講　義
14	難病をもつ療養者と その家族への看護（２）	ALSで人工呼吸器を実施する療養者の 在宅看護の事例	演　習
15	まとめ・終講試験／解答・解説		講　義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座　地域・在宅看護論①「地域・在宅看護の基盤」　医学書院 系統看護学講座　地域・在宅看護論②「地域・在宅看護の実践」　医学書院
参考書	新体系　看護学全書「在宅看護論」　メヂカルフレンド社 看護実践にための根拠がわかる「在宅看護技術」　メヂカルフレンド社

備　考	＊教科書を事前に読み予習しておく。講義後の内容は整理し復習しておく。

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●	●	

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	地域・在宅看護援助論Ⅱ			担当講師	高柳真理子		
分　野	専門	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1単位	時　間	30 時間	学　年	2年次	学　期	後期
概　要	地域・在宅看護論では、地域で暮らすあらゆる健康レベルの人々に対し、環境と健康課題を包括的な視点からとらえ、地域で療養する人々とその家族の「生活の場を整える」看護が求められる。本科目では、在宅における日常生活援助ならびに医療的援助における基本的なアセスメントや援助技術の具体的方法、また、在宅における健康危機管理やトラブル時の対応について学ぶ。そして、既存の看護技術の知識を踏まえ、在宅看護に必要な看護技術として応用し実施する。						
到達目標	1. 在宅療養者とその家族の状況に応じた生活支援や医療管理の方法を理解する。 2. 在宅療養者の特性に応じた日常生活援助および医療的援助の基本的なアセスメントをする。 3. 在宅療養者の状況に応じた在宅看護の特異的な援助技術を具体的に実施する。						

回	主題	内　容	学習方法
1	在宅看護に必要な基本技術	在宅看護におけるコミュニケーション技術	講義・演習
2	在宅におけるヘルスアセスメント	在宅における フィジカルアセスメント	演　習
3	初回訪問の実際	事例：訪問看護の実際 （初回訪問）	演　習
4	緊急時の訪問の実際	事例：訪問看護の実際 （夜間の発熱）	演　習
5	在宅における日常生活援助（１）	食事・嚥下、排泄、清潔ケアとその工夫	講義・演習
6	在宅における日常生活援助（２）	呼吸、移動・移乗のケアとその工夫	講義・演習
7	在宅における医療的援助技術（１）	持続携帯式腹膜透析（ＣＡＰＤ）	講義・演習
8	在宅における医療的援助技術（２）	在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法 気管カニューレの管理	講義・演習
9	在宅における医療的援助技術（３）	在宅中心静脈栄養法、在宅経管栄養法、PEG	講義・演習
10	在宅における医療的援助技術（４）	膀胱留置カテーテル、ストーマケア	講義・演習
11	在宅における日常生活援助の実際	褥瘡予防ケア・移動援助の実際	演　習
12	医療的援助技術の実際（１）	経管栄養の管理（ＰＥＧ）	演　習
13	医療的援助技術の実際（２）	膀胱留置カテーテルの管理	演　習
14	医療的援助技術の実際（３）	呼吸管理（気管切開部の管理・気管内吸引・ 人工呼吸療法）口・鼻腔吸引	演　習
15	まとめ・終講試験／解答・解説		講　義

評価方法	客観試験・技術評価
教科書	系統看護学講座　地域・在宅看護論①「地域・在宅看護の基盤」　医学書院 系統看護学講座　地域・在宅看護論②「地域・在宅看護の実践」　医学書院
参考書	看護実践のための根拠がわかる「在宅看護技術」　メヂカルフレンド社
備　考	＊教科書を事前に読み予習しておく。講義後の内容は整理し復習しておく。

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●	●	

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	地域・在宅看護援助論Ⅲ			担当講師	湯浅みゆき		
分　野	専門	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1単位	時　間	15 時間	学　年	2年次	学　期	後期
概　要	在宅看護過程では、療養者の健康面とともに生活に着目する必要性が極めて高く、生活に影響する療養者の機能を幅広くアセスメントすることが重要である。本科目では、療養者の生活に影響を与える総合的機能を構成する要素や総合的機能をアセスメントする視点、またエンパワメントに着目した看護展開をするために必要な基本的知識を学ぶ。そのため、在宅看護の特徴が理解できるよう事例を提示し、在宅療養者とその家族が主体である事をふまえ、生活の場における看護展開ができるように学ぶ。						
到達目標	1. 在宅看護過程の特徴を理解する。 2. 在宅における療養者とその家族の生活上の課題を述べる。 3. 在宅療養者とその家族の状況に応じた生活支援や医療管理の方法を理解する。 4. 療養者とその家族が望む在宅療養生活を送るための社会資源の活用を理解する。						

回	主題	内　容	学習方法
1	在宅看護過程	在宅看護過程の特徴とその展開方法	講　義
2	在宅特有の看護過程	療養上のリスクマネンジメント	講　義
3	在宅看護過程の展開	在宅におけるALS療養者の看護過程の展開	演　習
4			
5	事例による看護過程の展開	在宅看護計画の実際	演　習
6			
7			
8	まとめ・終講試験／解答・解説		講　義

評価方法	客観試験・看護過程の評価
教科書	系統看護学講座　地域・在宅看護論①「地域・在宅看護の基盤」　医学書院 系統看護学講座　地域・在宅看護論②「地域・在宅看護の実践」　医学書院
参考書	強みと弱みからみた「在宅看護過程」　医学書院
備　考	＊教科書を事前に読み予習しておく。講義後の内容は整理し復習しておく。

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●	●	●

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	成人看護学概論			担当講師	船橋悦子		
分　野	専門	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1単位	時　間	30 時間	学　年	1年次	学　期	後期
概　要	成人期にある対象をライフサイクルや生涯発達、生活者の視点から捉えるとともに、現在の社会の中で生活する成人の、健康や生活を捉え、それを支える看護について学習する。 演習を通して成人期にある自己を振り返りながら、健康問題に対する理解を深める内容とし、対象の健康を維持・増進するための方策を、ヘルス・プロモーションの概念を基に理解する内容とする。						
到達目標	1. 成人期にある対象を理解する。 2. 成人期に特有の健康問題について理解する。 3. 成人期の健康問題への看護アプローチを理解する。 4. ヘルスプロモーションの概念を基に成人の健康を理解する。						

回	授　業　計　画　・　内　容		学習方法
1	成人期にある対象の理解	成人とは	講　義
2	成人各期における対象の特徴	青年期・壮年期・向老期	講　義
3	成人の生活と健康	家族形態と機能、家族支援	講　義
4	成人の生活と健康	成人を取り巻く社会状況の変化	講　義
5	成人に特有の健康問題の特徴（1）	生活習慣・生活ストレスに関連する健康障害①	講　義
6	成人に特有の健康問題の特徴（2）	生活習慣・生活ストレスに関連する健康障害②	講　義
7	成人に特有の健康問題の特徴（3）	生活習慣・生活ストレスに関連する健康障害③	講義・演習
8	成人への看護アプローチ（1）	成人学習の特徴とアンドラゴジー	講　義
9	成人への看護アプローチ（2）	ヘルスプロモーションと保健行動	講義・演習
10	成人への看護アプローチ（3）	病みの軌跡	講義・演習
11	成人への看護アプローチ（4）	変化のステージモデルと健康信念モデル	講　義
12	成人への看護アプローチ（5）	自己効力理論	講　義
13	成人への看護アプローチ（6）	意思決定支援と危機理論	講　義
14	成人期にある対象の看護実践の倫理	看護倫理、倫理的判断の基盤	講　義
15	まとめ・終講試験／解答・解説		講　義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座「成人看護学総論」　　医学書院
参考書	
備　考	

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●	●	

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	成人看護学援助論Ⅰ			担当講師	楠山美由紀		
分　野	専門	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1単位	時　間	30 時間	学　年	1年次	学　期	後期
概　要	慢性的な経過をたどる健康障害、いわゆる慢性疾患を有する人および家族は、生涯にわたって疾病と付き合うこととなる。そのため疾病と共生し、その人らしい社会生活を持続させるための疾病・治療のコントロールやセルフマネジメント能力が必要となる。 本科目では、看護実践を展開していく際に必要な病態の理解、基盤となる理論や概念に基づき、慢性疾患とともに生活している人を支え、セルフマネジメント能力を高める援助方法や看護技術、社会資源の活用について学習する。						
到達目標	1. セルフマネジメントが必要な対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解する。 2. 慢性疾患がライフサイクルに及ぼす影響と、対象のニードに合わせた看護の特徴を理解する。 3. 生涯にわたって生活調整を必要とする対象の、セルフマネジメントに向けた統合的アプローチを理解する。						

回	主　題	内　容	学習方法
1	慢性期にある対象の特徴および看護の特徴	慢性期疾患の特徴、継続的な学習支援と連携	講　義
2	セルフマネジメントを目指す看護の実際（1）	呼吸機能障害がある人の看護①	講義・演習
3	セルフマネジメントを目指す看護の実際（2）	呼吸機能障害がある人の看護②	講義・演習
4	セルフマネジメントを目指す看護の実際（3）	循環機能障害がある人の看護①	講　義
5	セルフマネジメントを目指す看護の実際（4）	循環機能障害がある人の看護②	講　義
6	セルフマネジメントを目指す看護の実際（5）	循環機能障害がある人の看護③	講義・演習
7	セルフマネジメントを目指す看護の実際（6）	代謝内分泌機能障害がある人の看護①	講　義
8	セルフマネジメントを目指す看護の実際（7）	代謝内分泌機能障害がある人の看護②	講義・演習
9	セルフマネジメントを目指す看護の実際（8）	代謝内分泌機能障害がある人の看護③	講義・演習
10	セルフマネジメントを目指す看護の実際（9）	腎機能障害がある人の看護①	講　義
11	セルフマネジメントを目指す看護の実際（10）	腎機能障害がある人の看護②	講　義
12	セルフマネジメントを目指す看護の実際（11）	腎機能障害がある人の看護③	講　義
13	セルフマネジメントを目指す看護の実際（12）	免疫機能障害がある人の看護①	講　義
14	セルフマネジメントを目指す看護の実際（13）	免疫機能障害がある人の看護②	講　義
15	まとめ・終講試験/解答・解説		講　義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学②③⑥⑧⑪　医学書院
参考書	
備　考	

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●	●	

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	成人看護学援助論Ⅱ			担当講師	皆川佳代子		
分　野	専門	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1単位	時　間	30 時間	学　年	2年次	学　期	前期
概　要	急性期は突然発生し生命や健康の危機状態におかれるため、治療優先になりがちであるが、対象の精神的な衝撃は大きく、また自律性は最大限に尊重していかなければならない。成人期は多様な社会的役割を有することから、健康や生命の危機状態において、役割や価値観の変容を余儀なくされることがあり、またその影響は家族にも及ぶ。 本科目では、周手術期を含む急性期を健康危機状況と捉え、健康危機状況にある対象を家族を含めて捉えられるよう学習する。また、侵襲に対する生体反応を含めた身体的特徴や、精神的・社会的特徴を既習の理論と結びつけながら捉え、それぞれの場で行われる看護について学習する。						
到達目標	1. 健康危機状況にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解する。 2. 周手術期にある対象を統合的に捉え、侵襲的治療を受ける対象の看護の特徴を理解する。 3. 急性状態、生命や健康の危機状況にある対象の看護を理解する。						

回	主　題	内　容	学習方法
1	急性期にある対象の特徴および看護の特徴	急性期疾患の特徴、異常の早期発見および危機状況にある対象および家族の支援	講　義
2	生命の危機状況にある対象とその家族の看護（１）	外傷・熱傷・中毒	講　義
3	生命の危機状況にある対象とその家族の看護（２）	外傷・熱傷・中毒	講　義
4	生命の危機状況にある対象とその家族の看護（３）	外傷・熱傷・中毒	講　義
5	周手術期における看護（１）	開腹術を受ける人の看護①	講　義
6	周手術期における看護（２）	開腹術を受ける人の看護②	演　習
7	周手術期における看護（３）	開腹術を受ける人の看護③	講義・演習
8	周手術期における看護（４）	開頭術を受ける人の看護①	講　義
9	周手術期における看護（５）	開頭術を受ける人の看護②	講　義
10	周手術期における看護（６）	開胸術を受ける人の看護①	講　義
11	周手術期における看護（７）	開胸術を受ける人の看護②	講義・演習
12	周手術期における看護（８）	開心術を受ける人の看護①	講　義
13	周手術期における看護（９）	開心術を受ける人の看護②	講　義
14	周手術期における看護（10）	開心術を受ける人の看護③	講義・演習
15	まとめ・終講試験／解答・解説		講　義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座　専門分野　成人看護学②③⑤⑦　　医学書院 系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論　　医学書院 系統看護学講座　別巻　臨床外科看護各論　　医学書院
参考書	
備　考	

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●	●	

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	成人看護援助論Ⅲ			担当講師	皆川佳代子・上田純也		
分　野	専門	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1単位	時　間	30 時間	学　年	2年次	学　期	前期
概　要	自らのアイデンティティや生活スタイルがほぼ、あるいはすでに確立した成人期に差し掛かってから、外傷や疾病によって、新たに生じた障害とともに生きていくことは容易ではない。単なる日常生活の身辺処理に対する代償方法の獲得に限らず、自己価値の動揺から立ち直り、障害をもつ自分の人生の目標を立て直し、社会に参加するために自分自身と自分の周囲を調整していく能力を身につけられるような支援が必要となる。 本科目では、生活に軸足をおいた視点でセルフケアを捉え、その人らしい生活を再構築していくための支援方法を学ぶ。さらに、患者の家族は患者の最大のサポートシステムとしてみなされ働きかけられるが、家族もまた障害に巻き込まれている当事者であるという見方も重視し、家族の危機に対する援助の方法も学ぶ。						
到達目標	1. セルフケア再獲得に向けて援助が必要な対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解する。 2. 障害の受容過程を理解し、必要な支援を考える。 3. その人らしい生活を再構築していくための対象の看護について理解する。						

回	主　題	内　容	学習方法
1	回復期にある対象の特徴および看護の特徴	機能障害とは、回復期における看護の役割	講　義
2	セルフケア再獲得を支援するシステム	家族への支援、継続的な支援体制と連携	講　義
3	セルフケア再獲得に向けた援助	経過別リハビリテーション	講　義
4	セルフケア再獲得を目指す看護の実際（1）	脳神経機能障害がある人の看護①	講　義
5	セルフケア再獲得を目指す看護の実際（2）	脳神経機能障害がある人の看護②	講義・演習
6	セルフケア再獲得を目指す看護の実際（3）	脳神経機能障害がある人の看護③	講義・演習
7	セルフケア再獲得を目指す看護の実際（4）	運動機能障害がある人の看護①	講　義
8	セルフケア再獲得を目指す看護の実際（5）	運動機能障害がある人の看護②	講　義
9	セルフケア再獲得を目指す看護の実際（6）	消化機能障害がある人の看護①	講　義
10	セルフケア再獲得を目指す看護の実際（7）	消化機能障害がある人の看護②	講　義
11	セルフケア再獲得を目指す看護の実際（8）	消化機能障害がある人の看護③	講義・演習
12	セルフケア再獲得を目指す看護の実際（9）	セクシュアリティが障害された人の看護①	講　義
13	セルフケア再獲得を目指す看護の実際（10）	セクシュアリティが障害された人の看護②	講　義
14	セルフケア再獲得を目指す看護の実際（11）	セクシュアリティが障害された人の看護③	講　義
15	まとめ・終講試験／解答・解説		講　義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座　専門分野　成人看護学⑤⑦⑨⑩　　医学書院 系統看護学講座　別巻　リハビリテーション看護　　医学書院
参考書	
備　考	

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●	●	

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	成人看護学援助論Ⅳ			担当講師	船橋悦子		
分　野	専門	授業方法	演習	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1単位	時　間	30 時間	学　年	2年次	学　期	前期
概　要	成人期の発達段階や発達課題、身体的、心理的、社会的特徴を踏まえ、事例の情報分析・解釈から看護計画立案・援助の実施・評価まで、急性期から回復期にある対象の看護過程の展開を実施する。既習の学習内容を想起し、形態機能学、疾患の病態生理の知識を基に、患者に出現している症状、徴候を理解し、また生活する成人の視点を持ちながら患者を統合して捉えることを目指す内容とする。 また事例を通し、基礎看護技術で学んだ知識、技術を統合して成人に必要な援助を考え、看護技術の向上に努めていくとともに、成人期における対象への看護過程の展開技術の習得を目的とし授業を構成する。						
到達目標	1. 成人期にある人の特徴・発達段階を踏まえた、看護過程の展開を理解する。 2. 看護過程の展開を通して、成人期に必要な援助技術を習得できる。						

回	主　題	内　容	学習方法
1	成人看護過程演習（１）	手術前の看護	講義・演習
2	成人看護過程演習（２）	術直後の看護	講義・演習
3	成人看護過程演習（３）	術直後の看護	講義・演習
4	成人看護過程演習（４）	術直後の看護	講義・演習
5	成人看護過程演習（５）	術後～回復期①　情報整理・分析・解釈	講義・演習
6	成人看護過程演習（６）	術後～回復期②　関連図	講義・演習
7	成人看護過程演習（７）	術後～回復期③　問題の明確化・計画立案	講義・演習
8	成人看護過程演習（８）	看護計画に基づく実施①	演　習
9	成人看護過程演習（９）	看護計画に基づく実施②	演　習
10	事例に基づく技術演習(1)	点滴挿入中の清拭・寝衣交換	演　習
11	事例に基づく技術演習(2)	援助の評価	講義・演習
12	成人看護過程演習（１０）	経過記録	講義・演習
13	成人看護過程演習（１１）	経過記録	講義・演習
14	成人看護過程演習（１２）	看護要約	講義・演習
15	まとめ・終講試験／解答・解説		講　義

評価方法	客観試験
教科書	NANDA-I看護診断　　医学書院
参考書	看護がみえるVOL.4　看護過程の展開　　メディックメディア
備　考	

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●	●	●

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	老年看護学概論			担当講師	関　茂之		
分　野	専門	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1単位	時　間	30時間	学　年	1年次	学　期	後期
概　要	成長発達の最終段階である老年期は、人としての英知を統合し、いずれは穏やかに最期を迎えるべき段階である。長い人生経験と知恵、及び個人の生き方・価値観を尊重し、個別な存在として理解する必要がある。本科目では、加齢に伴う心身の変化や生活の変化を踏まえながら、高齢社会における保健・医療・福祉の現状と今後の課題について学ぶことを通して、高齢者の理解を深めていく。						
到達目標	1. 高齢者の特徴と加齢に伴う変化を理解する。 2. 高齢社会の医療・保健・福祉の変遷を理解する。 3. 高齢者看護の役割と特徴を理解する。						

回	主題	内容	学習方法
1	「老いる」ということ	身体的・精神的・社会的側面の変化（1）	講　義
2		身体的・精神的・社会的側面の変化（2）	講　義
3		高齢者体験	演　習
4	老いを生きるということ	高齢者の定義、老年期の発達課題	講　義
5	超高齢社会と社会保障	超高齢社会の現況	講　義
6	高齢社会における 保健医療福祉の動向	保健医療福祉制度の変遷	講　義
7		介護保険法、高齢者医療確保法	講　義
8	高齢者の権利擁護	エイジズム、高齢者虐待、身体拘束	講　義
9		自己決定権、成年後見制度、日常生活自立支援事業	講　義
10	高齢者とヘルスプロモーション	老年期のヘルスプロモーション	講　義
11	高齢者のリスクマネジメント	高齢者と医療安全、高齢者と災害	講　義
12	高齢者と家族	家族の発達課題、レスパイトケア	講　義
13	老年看護の役割	諸理論・概念 エイジズム、エンパワメント、ストレングスモデル、ライフヒストリー、コンフォート理論	講　義
14		エンドオブライフケア、アドヴァンスケアプランニング	講　義
15	まとめ・終講試験／解答・解説		筆記試験・レポート

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座　専門分野　「老年看護学」　医学書院 根拠と事故防止からみた老年看護技術　第2版　医学書院
参考書	国民衛生の動向　厚生統計協会
備　考	

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●	●	

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	老年看護学援助論Ⅰ			担当講師	関　茂之		
分　野	専門	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1単位	時　間	30時間	学　年	2年次	学　期	前期
概　要	高齢者は加齢変化や健康障害によって容易に生活能力の機能低下が起こる。そのため、高齢者の身体や生活能力をアセスメントし、高齢者およびその家族への生活の支援が求められる。また、人口の高齢化に従い、健康障害を有する高齢者も増加している。本科目では、高齢者の生活や家族を理解し、高齢者の健康障害の特徴を理解したうえで、高齢者に多い症状・状態に応じた治療・処置を受ける高齢者の看護を学ぶ。						
到達目標	1. 加齢変化に伴う日常生活への影響を理解する。 2. 生活能力の機能低下防止に向けた援助を習得する。 3. 高齢者に多い疾患の理解と、健康障害に応じた看護について理解する。 4. 高齢者を介護する家族への看護について理解する。						

回	主　題	内　容	学習方法
1	呼吸機能障害のある高齢者の看護	誤嚥性肺炎、COPD、肺結核	講　義
2	運動機能障害のある高齢者の看護	骨粗鬆症、骨折、廃用症候群、 パーキンソン症候群	講　義
3	感覚機能障害のある高齢者の看護	視覚　老人性白内障、緑内障、糖尿病性網膜症、加齢黄斑変性症 聴覚　老人性難聴 皮膚感覚　痛み、しびれ、痒み	講　義
4	消化、代謝、内分泌機能に障害のある高齢者の看護	胆石症、肝硬変、脱水	講　義
5	排泄機能に障害のある高齢者の看護	前立腺肥大症、排尿障害、便秘・下痢、 イレウス・腸閉塞 下痢を伴う感染症（ノロウイルス、CD10） 閉経後性器尿路症候群	講　義
6		導尿	演　習
7	皮膚に障害のある高齢者の看護	スキンケア、ドライスキン 疥癬、白癬、帯状疱疹、胼胝、鶏眼	講　義
8	外来受診、治療、検査を受ける高齢者の看護	外来受診時の高齢者の特徴、診察・検査時の援助	講　義
9	入院・退院する高齢者の看護	疾患治療の理解と治療継続への援助 高齢者の退院支援	講　義
10	認知症高齢者の看護	認知症の理解、原因疾患の診断と治療 認知症のアセスメント、中核症状、行動・心理症状	講　義
11		パーソンセンタードケア、ユマニチュード、回想法	講　義
12	老人性うつ病、せん妄の看護	老人性うつ病、せん妄	講義・演習
13	老年症候群予防に向けた看護	老年症候群、廃用症候群（生活不活発病） ロコモティブシンドローム、フレイル 深部静脈血栓症	講　義
14	健康障害をもつ高齢者の家族への看護	看護の対象としての家族、介護者の健康支援	講　義
15	まとめ・終講試験／解答・解説		筆記試験・レポート

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座　専門分野　「老年看護学」　医学書院 系統看護学講座　専門分野　「老年看護　病態・疾患論」　医学書院 根拠と事故防止からみた老年看護技術　第2版　医学書院

参考書	
備　考	

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●	●	

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	老年看護学援助論Ⅱ			担当講師	根本弘美		
分　野	専門	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1単位	時　間	30時間	学　年	2年次	学　期	前期
概　要	高齢者看護においては、高齢者に起こりやすい変化を理解し、幅広い観察力とアセスメント力、活動耐性の評価方法、機能低下防止、個別の生活援助に関する知識・技術が必要である。そのため、本科目では、生活者としての高齢者を捉え、生活機能別に看護援助を学ぶ。また、健康を障害された高齢者を生活機能の観点からアセスメントし、看護を展開する方法を学ぶ。						
到達目標	1. 加齢変化に伴う日常生活への影響を述べる。 2. 生活能力の機能低下防止に向けた援助技術を習得する。 3. 高齢者の特徴を踏まえ生活機能に着目した看護過程を学ぶ。						

回	授　業　計　画	内　容	学習方法
1	高齢者のフィジカルアセスメント・ コミュニケーションと看護	難聴、視力障害	講　義
2	食事と看護ケア（１）	高齢者の食事援助 脱水、栄養状態アセスメント	講　義
3	食事と看護ケア（２）	高齢者の食事援助の実際 嚥下体操、口腔ケア、義歯、食事援助	演　習
4	排泄と看護ケア（１）	高齢者の排泄援助アセスメント 失禁ケア	講　義
5	排泄と看護ケア（２）	高齢者の排泄援助の実際 陰部洗浄　オムツ交換	演　習
6	高齢者の清潔ケア	入浴行動に伴う危険性、負担に応じた 清潔・衣生活の援助	講　義
7	活動と看護ケア	高齢者の活動と休息への援助の実際	講　義
8	高齢者の看護過程（１）	高齢者の看護における生活機能分類	講　義
9	高齢者の看護過程（２）	事例展開 事例紹介、事例の看護過程を展開する 多重疾患、認知症高齢者の生活支援の理解 高齢者家族を含めた看護援助の実際	講義・演習
10			
11			
12			
13			
14			
15	まとめ・終講試験／解答・解説		筆記試験・レポート

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座　　専門分野「老年看護学」　　医学書院 系統看護学講座　　専門分野「老年看護　病態・疾患論」　　医学書院 根拠と事故防止からみた老年看護技術　第2版　　医学書院
参考書	生活機能から見た老年看護過程　　医学書院
備　考	

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●	●	

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	小児看護学概論			担当講師	神　清美		
分　野	専門	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1単位	時　間	30時間	学　年	1年次	学　期	後期
概　要	少子高齢化に伴い、子どもを取り巻く環境は変化している。子どもは、同胞あるいはさまざまな年齢の人々との関りが減り、社会性が育まれにくい環境にあり不登校や心身症の子どもが増加している。また核家族化に伴い地域に子育て支援者がいないことが、育児期の親の負担感や孤立感を増大させ、育児不安や児童虐待などの深刻な問題となっている。 小児期は絶え間ない成長発達をとげる時期であり、小児期の過ごし方はその後の身体的・精神的・社会的発達や健康生活に大きく影響を与える。これからの時代を生きる子どもたちが健やかに育っていくことは人類の願いであり、ライフサイクルから見た小児各期の特徴を理解するとともに、成長発達の形態的成長、機能的・精神的発達を学ぶ。また子どもの健康な発達を支える社会、環境、法律を学ぶ。						
到達目標	1. 子どもの成長発達の特徴と基盤となる概念を述べる 2. 子どもと家族の関係を述べる 3. 小児看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状、小児看護の役割を述べる 4. １人の人として子どもを尊重し、社会の中で健やかに成長し生きていくことができるよう看護を提供する必要性を理解する						

回	主　題	内　容	学習方法
1	小児看護の対象となる子どもと家族	小児看護の対象の特徴	講義・演習
2	子どもの成長発達の基本となる原則	成長発達の概念、成長発達の原則と進み方	講義・演習
3	小児期各時期の成長発達の特徴	発達課題と発達理論、エリクソン	講義・演習
4	乳児期、幼児期、学童期、思春期の成長発達と看護 各時期の成長発達の特徴	・形成的成長と機能的発達の評価 ・身体発達の評価 ・発達検査 ・心理・社会的発達の評価 ・発達に影響を及ぼす養育環境 ・器官系統的成長発達の特徴 ・社会性、道徳性、コミュニケーション、認知、思考の特徴 ・アタッチメントと分離不安	演　習
5			
6			
7			
8			
9	子どもにとっての遊び	子どもにとっての遊びの種類と意義	講義・演習
10	子どもと家族をとりまく社会	母子保健施策の活用 小児保健医療福祉施策の活用	講義・演習
11	児童福祉法の変遷と子育て支援制度	児童福祉法・子育て支援	講義・演習
12	小児看護における倫理・権利	・小児医療における子どもの権利の変遷 ・小児医療、小児看護における倫理的配慮 ・子どもの虐待防止	講義・演習
13			講義・演習
14	小児看護の目標と役割	小児看護の変遷と課題、子どもと家族の健康課題	講義・演習
15	まとめ・終講試験／解答・解説		筆記試験、育児ノート

評価方法	客観試験、育児ノート
教科書	系統看護学講座　専門分野「小児看護学概論・小児臨床看護総論」　医学書院
参考書	
備　考	

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●	●	

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	小児看護学援助論Ⅰ			担当講師	藤岡　寛		
分　野	専門	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1単位	時　間	30時間	学　年	2年次	学　期	前期
概　要	小児期の発病や重篤な健康問題は、子ども自身の成長発達に大きな影響を及ぼすばかりでなく、家族のセルフケア能力を低下させる。これらのことを理解しながら、子どもの健康障害が子どもとその家族に及ぼす影響が最小限になるよう、子どもと家族に必要とされる援助の方向性と看護の役割を学習する。						
到達目標	1. 子どもに特徴的な疾患を学ぶ 2. 健康障害に応じた看護を考えるために、各疾患の病態・症状・診断・治療を学ぶ 3. さまざまな健康問題をもつ子どもとその家族への看護を学ぶ						

回	主　題	内　容	学習方法
1	子どもに特徴的な疾患	１．染色体異常・体内環境により発症する先天異常、出生前診断 ２．代謝性疾患 ３．内分泌疾患 ４．免疫疾患・アレルギー疾患・リウマチ性疾患 ５．感染症 ６．呼吸器疾患 ７．循環器疾患 ８．消化器疾患 ９．血液・造血器疾患 10．悪性新生物 11．神経疾患 12．運動器疾患	講　義
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8	感染症の子どもと家族の看護 発達障害のある子どもと家族の看護	・子どもの感染症に対する基礎知識 ・子どもの感染症疾患の看護 ・発達障害（神経発達症候群）とは 知的能力障害、自閉スペクトラム症、 注意欠如・多動症	講義・演習
9			
10			
11			
12	子どもの虐待と看護 障害のある子どもと家族の看護	・子どもの虐待の特徴 ・虐待のリスク要因と早期発見 ・虐待の未然防止に向けての支援 ・多機関、多職種間連携と協働 ・心身障害の定義と種類 ・家族と子どもの障害受容 ・重症心身障害児（脳性麻痺） ・医療的ケアの必要な超重症児	講義・演習
13			
14			
15	まとめ・終講試験／解答・解説		講　義

評価方法	客観試験・レポート内容で評価する
教科書	系統看護学講座　専門分野「小児看護学概論・小児臨床看護総論」　医学書院 系統看護学講座　専門分野「小児臨床看護各論」　医学書院
参考書	
備　考	

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●	●	

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	小児看護学援助論Ⅱ			担当講師	神　清美		
分　野	専門	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1単位	時　間	30時間	学　年	2年次	学　期	後期
概　要	近年少子化を対象とした医療の場の減少は、大きな社会現象になっている。入院期間が短縮化し、慢性疾患の管理や人工呼吸器などの在宅医療を受けながら生活する子どもも増えており、外来看護の役割が期待されている。 また、子どもと家族にとって望ましい入院環境は、単なる治療の場ではなく成長に向かう「成長の場」として捉える視点が必要である。そのためには、入院療養中であっても継続的な保育や教育を受けることができ、子どもや家族にとって不安やストレスを最小限にとどめるための援助が必要である。本科目では、受療のさまざまな場面における子どもと家族への看護を学ぶ。						
到達目標	1. 外来受診をする子どもと家族の理解をとおして、外来看護の役割を学ぶ 2. 入院している子どもと家族の理解をとおして、入院が影響する不安やストレスを最小限にするための援助を、子どもの発達段階ごとに学ぶ 3. 受療のさまざまな場面をとおして、子どもと家族に寄り添う看護のありかたを理解する						

回	主　題	内　容	学習方法
1 2	外来における子どもと家族の看護	・外来における緊急度の把握・トリアージ ・外来における感染症の対策 ・受診時の子どもと家族の緊張と不安の軽減 ・健康診査・育児相談	講義・演習
3 4	入院中の子どもと家族の看護	（１）病気や診察・入院が子どもに及ぼす影響 ・成長発達に及ぼす影響 ・ストレスと影響要因 ・子どもの反応とストレス対処行動 ・家族、兄弟に及ぼす影響とその支援	講義・演習
5 6	検査・処置を受ける子どもと家族の看護	（１）診療・検査に伴う技術と看護 バイタルサイン測定、身体測定、与薬、吸引 （２）プレパレーション 採血・採尿、穿刺、注射・輸液、酸素療法、経管栄養	講義・演習
7 8	周手術期にある子どもと家族の看護	・子どもの手術時の特徴 ・子どもと家族の術前準備 ・手術中・手術直後の家族への支援 ・手術後の身体状態のアセスメントと援助 ・子どもの安全・安楽への援助	講義・演習
9 10	急性期にある子どもと家族の看護	・急性期症状にある疾患の特徴 ・急性期の症状に合わせた子どもと家族への援助 ・発熱、脱水、下痢、嘔吐、呼吸困難、けいれん	講義・演習
11 12	慢性期にある子どもと家族の看護	・慢性疾患による子どもと家族の生活の変化 ・学習支援、復学支援 ・発達に応じたセルフケア能力の獲得と家族支援	講義・演習
13 14	終末期にある子どもと家族の看護	・子どもの死の概念 ・死に対する子どもの反応 ・終末期にある子どもの心身の状態と緩和ケア ・子どもの死を看取る家族の反応、グリーフケア	講義・演習
15	まとめ・終講試験／解答・解説		筆記試験

評価方法	客観試験	
教科書	系統看護学講座　専門分野　「小児看護学概論・小児臨床看護総論」　医学書院 系統看護学講座　専門分野　「小児臨床看護各論」　医学書院	
参考書		

備　考	

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●	●	

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	小児看護学援助論Ⅲ			担当講師	神　清美		
分　野	専門	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1単位	時　間	30時間	学　年	2年次	学　期	後期
概　要	子どもに対する検査・処置を安全・安楽に行うためには、子どもの発達段階や解剖・生理の理解が重要である。今日、医療の中で脅かされがちな子どもの権利が奪われることなく看護が行われる機運が生じていることから、子どもの検査・処置の場面でも、子どもに対する説明と同意の配慮が求められている。それらを踏まえ本科目では、それぞれの発達段階にある子どもや家族の力が引き出せるような援助技術の習得を目指す。						
到達目標	1. 子どもの看護に必要なフィジカルアセスメント能力を身に着ける 2. 検査・処置を受ける子どもの不安を緩和する看護の方法を理解する 3. 子どもの解剖・生理、成長発達の基礎知識を生かしつつ、安全・安楽の観点から、検査・処置を行う方法を理解する 4. 子どもの発達段階に応じた看護過程の展開方法を身につける						

回	主　題	内　容	学習方法
1 2	症状別にみる子どもの看護	（１）子どもの特徴的な症状 （２）発達段階ごとの子どもの看護	講義・演習
3 4	事故・外傷と看護	一次救命処置　発達段階に応じた安全教育	講義・演習
5 6 7 8	子どもの特有の検査・処置	（１）検査・処置の説明 :インフォームド・アセント （２）子どもの尊厳：子どもの倫理・権利	講義・演習
9 10 11 12	看護過程の展開	小児の展開の特徴 事例展開：グループワーク 看護展開の実際	講義・演習
13 14	小児看護の基本となる技術	（１）コミュニケーション技術 ：プレパレーション （２）子どものフィジカルアセスメント ：バイタルサイン測定	講義・演習
15	まとめ・終講試験／解答・解説		講　義

評価方法	客観試験、レポート
教科書	系統看護学講座　専門分野「小児看護学概論・小児臨床看護総論」　医学書院
参考書	
備　考	

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●	●	

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	母性看護学概論			担当講師	森　裕子		
分　野	専門	授業方法	講義	実務経験	助産師・看護師としての実務経験		
単位数	1単位	時　間	30 時間	学　年	1年次	学　期	後期
概　要	母性看護の対象は女性と生殖や育児のパートナーとしての男性、子どもが生まれるあるいは乳幼児を育てる家族、その家族が生活する地域社会を含んでいる。次世代が健康に生まれ育つことが普遍的な人間の願いであり時代の変遷とともに母親への支援が質的・量的に変化している。これは同時に女性の生涯の役割の多様化、医学の進歩・発展・晩産化と少子高齢化、母子をめぐる生活環境の著しい変化、グローバル化をリプロダクティブ・ヘルス／ライツの視点から理解し今後の課題を考察する						
到達目標	1. 母性看護の概念と母子保健の動向について理解する 2. 性の側面からとらえたライフサイクル各期の特徴と看護について理解する 3. 母性看護の役割・課題について考える						

回	主題	内容	学習方法
1	母性看護の基盤	母性とは父性とは　母子関係と家族発達	講　義
2	リプロダクティブヘルス／ライツ	リプロダクティブヘルス／ライツ　ヘルスプロモーション	講　義
3	母性看護のあり方	母性看護における倫理　少子化の進行と課題	講　義
4	母性看護の変遷と現状（1）	母子保健統計の動向	講　義
5	母性看護の変遷と現状（2）	母性看護の歴史的変遷と法律	講　義
6	母性看護の対象理解（1）	性周期と妊娠の成立	講　義
7	母性看護の対象理解（2）	女性のライフサイクルと家族	講　義
8	ライフステージ看護	ライフステージ各期の看護	講　義
9	リプロダクティブヘルスケア	性感染症　児童虐待　国際看護	講　義
10	母性看護の対象の現状と今後の課題	高齢出産／少子化／不妊　事例作成	講　義
11		高齢出産／少子化／不妊　事例作成	講義・演習
12		高齢出産／少子化／不妊　事例作成	講義・演習
13		高齢出産／少子化／不妊　今後の課題	演　習
14		高齢出産／少子化／不妊　今後の課題	演　習
15	まとめ・終講試験／解答・解説		講　義

評価方法	筆記試験に基づいて学修成果を判定する
教科書	系統看護学講座　専門分野「母性看護学概論」　医学書院
参考書	国民衛生の動向　厚生労働統計協会
備　考	※グループワークでは授業の振り返り、テーマに沿ったまとめ学習をする ※グループワーク発表では学生間で協力し発表資料を作成する ※しっかりと自己学習（予習・復習）してきて下さい

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●	●	

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	周産期にある人の援助論Ⅰ			担当講師	森　裕子		
分　野	専門	授業方法	講義	実務経験	看護師・助産師としての実務経験		
単位数	1単位	時　間	30時間	学　年	2年次	学　期	前期
概　要	正常な妊娠経過および胎児の発育、分娩各期の特徴と出産までの過程を学び、健康状態を観察・評価するために必要な方法と技術について学習する。妊婦・産婦の身体的・精神的な変化と社会的背景をふまえて各期に起こりやすい健康問題とその援助方法について学ぶ。						
到達目標	1. 正常な経過をたどる妊婦及び産婦の生理を理解する 2. 妊婦・産婦の看護を提供するにあたり必要な看護技術を習得する						

回	主題	内容	学習方法
1	不妊治療と看護	遺伝　出生前診断　不妊治療と看護	講　義
2	妊娠期の看護	妊娠の生理　妊娠期における身体的特徴と看護	講　義
3		妊娠の生理　妊娠期における身体的特徴と看護	講義・演習
4		妊娠の生理　妊娠期における身体的特徴と看護	講義・演習
5		胎児の発育とその生理	講　義
6		妊婦と胎児のアセスメント	講義・演習
7		妊娠中の運動の効果	演　習
8		妊娠期の事例展開	講義・演習
9		妊娠期の事例展開	講義・演習
10	分娩期の看護	分娩期の要素	講義・演習
11		分娩の経過　産婦と家族の看護	講義・演習
12		分娩の経過　ロールプレイング	講義・演習
13		分娩の経過　ロールプレイング	講義・演習
14		分娩の経過　ロールプレイング	演　習
15	まとめ・終講試験／解答・解説		講　義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座　専門分野「母性看護学各論」　医学書院
参考書	国民衛生の動向　厚生労働統計協会
備　考	※妊娠期の講義の中で妊娠中の運動としてヨガの演習を行います ※分娩期の講義中に分娩経過をモデル人形を使用し演習します ※しっかりと自己学習（予習・復習）してきて下さい.

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●	●	

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	周産期にある人の援助論Ⅱ			担当講師	森　裕子		
分　野	専門	授業方法	講義	実務経験	看護師・助産師としての実務経験		
単位数	1単位	時　間	30 時間	学　年	2年次	学　期	後期
概　要	正常な分娩経過と新生児の胎外生活への適応および、健康状態を観察・アセスメントするための方法と技術について学ぶ。褥婦の身体的・精神的な変化と社会的背景をふまえて起こりやすい健康問題とその援助法について学ぶ。母児相互作用の愛着形成、退院後の家族関係構築や育児、親としての役割獲得に向けて働きかけの重要性について学ぶ。						
到達目標	1. 正常な経過とたどる褥婦および新生児の生理を理解する 2. 褥婦・新生児の看護を提供するにあたり必要な看護技術を習得する 3. 周産期における対象の看護過程の展開方法を習得する						

回	主題	内容	学習方法
1	産褥期の看護	産褥期の経過と看護	講　義
2		産褥期の経過と看護	講　義
3		褥婦の看護過程	講義・演習
4		褥婦の看護過程	講義・演習
5		褥婦の看護過程	講義・演習
6	新生児期の看護	新生児の経過と看護　視聴覚学習	講義・演習
7		新生児の経過と看護　視聴覚学習	講義・演習
8		沐浴　バイタルサイン	講義・演習
9		沐浴　バイタルサイン	講義・演習
10		新生児の看護過程	講義・演習
11		新生児の看護過程	講義・演習
12		新生児の看護過程	講義・演習
13	母児の退院後の生活に向けての支援		講義・演習
14	母児の退院後の生活に向けての支援		講義・演習
15	まとめ・終講試験／解答・解説		講　義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座　専門分野「母性看護学各論」　　医学書院
参考書	
備　考	※新生児の沐浴は支援パンフレットを作成し演習に臨みます ※視聴覚学習では映像から実際の変化を学びます ※しっかりと自己学習（予習・復習）してきて下さい.

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●	●	

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	周産期にある人の援助論Ⅲ			担当講師	石渡 巌・森 裕子		
分　野	専門	授業方法	講義	実務経験	看護師・助産師としての実務経験		
単位数	1単位	時　間	15 時間	学　年	2年次	学　期	後期
概　要	ハイリスク状態にある母性の対象の各期に起こりやすい疾患・治療法について学ぶ。また、周産期にある対象の正常から逸脱による身体的・精神的・社会的側面に及ぼす影響と健康問題、看護ケアの方法について学ぶ。周産期医療におけるチーム医療と地域の現状とその必要性と役割について学びを深める。						
到達目標	1. ハイリスク妊娠・分娩・産褥・新生児について理解する 2. ハイリスク状態にある妊婦・産婦・褥婦・新生児とその家族の看護を理解する						

回	主題	内容	学習方法
1	妊娠期の看護	ハイリスク状態にある妊婦の身体的特徴とアセスメント	講　義
2	妊娠期の看護	ハイリスク状態にある胎児診断とその家族の看護	講　義
3	分娩期の看護	ハイリスク状態にある分娩期のアセスメント	講　義
4	新生児期の看護	ハイリスク状態にある新生児のアセスメント	講　義
5	妊娠期の看護	ハイリスク状態にある妊婦の看護	講　義
6	分娩期の看護	ハイリスク状態にある産婦、褥婦の看護	講　義
7	新生児期の看護	ハイリスク状態にある新生児と家族の看護	講　義
8	まとめ・終講試験／解答・解説		講　義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座　専門分野「母性看護学各論」　　医学書院
参考書	
備　考	※　正常な経過の復習をして臨んでください。

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●	●	●

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	精神看護学概論			担当講師	田端一成・庄司豊・高久正博 藤田智則・島田裕子		
分　野	専門	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1単位	時　間	30 時間	学　年	2年次	学　期	前期
概　要	若者の引きこもりや小中学生の不登校、うつ病や自死、アルコール依存症、発達障害等心の問題や心の病気でケアを必要としている人は年々増え続けている。本科目では、人間の精神機能の理解を基盤に、精神看護の対象・目的、役割と機能を学ぶ。そして、家庭・学校・職場・地域という生活の場における精神保健問題を考えられる内容とする。さらに、精神保健医療福祉の変遷と制度を理解し、地域におけるメンタルヘルスの保持・向上に関する活動を学ぶ。						
到達目標	1. 精神の健康の意義を学び、精神看護の対象・目的、役割と機能を理解する。 2. 精神保健医療福祉の変遷を、歴史・社会・医療的見地から理解する。						

回	授　業　計　画　・　内　容		学習方法
1	精神保健の基本	精神看護・精神の健康とは、精神障害者のとらえ方	講　義
2		精神障害の予防概念、心の機能と発達	講　義
3		精神の健康に及ぼす影響　レジリエンス	講　義
4	精神看護の基盤 となる理論Ⅰ	フロイトの発達理論・適応理論	講　義
5		ストレス・危機、偏見・差別・スティグマ	講　義
6	災害時の地域における 精神保健医療活動	災害時の地域における精神保健医療活動	講　義
7		災害時の地域における精神保健医療活動　初期対応/治療の継続	講　義
8	人間の心のはたらきと パーソナリティ	人間の心の諸活動、心のしくみと人格の発達	講　義
9		フロイトの発達理論・適応理論、ストレス・危機	講　義
10	関係の中での人間	①全体としての家族　②人間と集団	講　義
11	社会のなかの精神障害	精神保健医療福祉の歴史 精神医学・文化・社会学	講　義
12		精神保健医療福祉の法・施策： 人権擁護・入院形態、処遇、隔離・身体拘束等	講　義
13	社会資源の活用と ケアマネジメント	精神保健医療福祉における多職種連携	講　義
14		社会資源の活用方法：ホームヘルプ、訪問看護、ショートスティ、ケアホーム、就労支援、グループホーム、地域生活支援事業、グループホーム ケアマネージメントの基本的考え方	講　義
15	まとめ・終講試験／解答・解説		講　義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座　「精神看護学①　精神看護の基礎」　　医学書院 系統看護学講座　「精神看護学②　精神看護の展開」　　医学書院
参考書	講義の中で指示する
備　考	＊教科書を事前に読み予習しておく。講義後の内容は整理し復習しておく。

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●	●	

実務経験のある教員等による授業科目	□

科目名	精神看護学援助論Ⅰ			担当講師	山里道彦・小池正美		
分　野	専門	授業方法	講義	実務経験			
単位数	1単位	時　間	30 時間	学　年	2年次	学　期	後期
概　要	精神に障害をもつ人を理解するために、本科目では、精神障害の分類や診断および検査法、代表的な治療法を学ぶ。また、精神に障害をもつ人とその家族が抱える健康問題について、その人らしい生活を目標に看護の場におけるそれぞれの役割を学ぶ。さらに、精神看護ならではのリスクとリスクマネジメントについて学習する。						
到達目標	1. 症状や状態によってもたらされる生活の変化を把握し、その診断、検査、治療を理解する。 2. 精神に障害をもつ人に必要な検査・処置時の看護を理解する。 3. 精神に障害をもつ人の看護の基本を理解する。						

回	主題	内容	学習方法
1	主な精神疾患と障害	精神症状論と状態像、脳機能と精神の障害	講　義
2	主な精神疾患と障害	器質性精神障害、精神・行動障害 統合失調症、統合失調症型および妄想性障害、気分（感情）障害：双極性障害	講　義
3	主な精神疾患と障害	神経症性障害：ストレス障害、パニック障害、強迫神経症、不安障害等、PTSD	講　義
4	主な精神疾患と障害	身体表現性障害：摂食障害、睡眠一覚醒障害、不眠障害、ナルコレプシー	講　義
5	主な精神疾患と障害	生理的障害、身体的要因に関連した行動症候群、パーソナリテイ障害	講　義
6	主な精神疾患と障害	習慣および衝動の障害：習癖、依存、性同一性障害	講　義
7	主な精神疾患と障害	てんかん、神経発達障害群、心身症	講　義
8	主な精神疾患と障害	知的障害：自閉症スペクトラム障害 小児期・青年期の情緒障害：自死、自傷行為、不登校、ひきこもり	講　義
9	主な精神疾患と障害	精神療法：個人・集団・家族療法 薬物療法、電気けいれん療法、 環境・社会療法	講　義
10	精神に障害をもつ人の理解と看護	症状と看護　器質性精神障害、統合失調症等	講　義
11	精神に障害をもつ人の理解と看護	症状と看護　気分障害、神経症性障害等	講　義
12	精神に障害をもつ人の理解と看護	症状と看護　ストレス障害、身体表現性障害等	講　義
13	精神に障害をもつ人の理解と看護	症状と看護　てんかん、神経発達障害群、心身症等	講　義
14	精神に障害をもつ人の理解と看護	メンタルヘルス　リエゾン看護	講　義
15	まとめ・終講試験／解答・解説		講　義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座「精神看護学①　精神看護の基礎」　医学書院 系統看護学講座「精神看護学②　精神看護の展開」　医学書院
参考書	

備　考	＊教科書を事前に読み予習しておく。講義後の内容は整理し復習しておく。

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●	●	

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	精神看護学援助論Ⅱ			担当講師	小池正美		
分　野	専門	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1単位	時　間	30 時間	学　年	2年次	学　期	後期
概　要	精神に障害がある人や精神症状をもった人の精神の健康増進・回復は、人とのコミュニケーションによって信頼関係を築くことが重要である。本科目では、精神を病む人と看護師の治療的人間関係成立に必要な技術として、コミュニケーション、看護場面再構成及び看護の展開について学ぶ。						
到達目標	1. 精神を病む人への看護援助の基本について理解する。 2. 精神を病む人の状況に応じたリクスマネジメントを理解する。 3. 精神看護の接近技法を学び、対象理解および援助に必要な働きかけを理解する。						

回	主題	内容	学習方法
1	精神看護のリスクマネジメント	セーフティマネジメント行動制限、自殺行為 事例を用いて考える	講義・演習
2		セーフティマネジメント行動制限、自殺行為 事例を用いて考える	講義・演習
3		セーフティマネジメント攻撃・暴力、災害時 の安全確保：事例を用いて考える	講義・演習
4		セーフティマネジメント攻撃・暴力、災害時 の安全確保：事例を用いて考える	講義・演習
5	ケアの人間関係（１）	精神看護における社会資源の活用 社会復帰：自立支援、訪問・生活介護 ｼｮｰﾄｽﾃｨ、ケアホーム、就労支援施設等	講義・演習
6		精神看護における社会資源の活用、社会復 帰：事例を用いて考える	講義・演習
7	ケアの人間関係（２）	プロセスレコード①　（講義）	講義・演習
8		プロセスレコード②　（演習）	講義・演習
9		プロセスレコード②　（演習）	講義・演習
10	ケアの人間関係（３）	精神看護に用いる理論、ケアの原則 セルフケア援助	講義・演習
11		精神看護におけるコミュニケーション （治療的コミュニケーション）	講義・演習
12		コミュニケーション、ロールプレイ	講義・演習
13		コミュニケーション、ロールプレイ	講義・演習
14		コミュニケーション、ロールプレイ	講義・演習
15	まとめ・終講試験／解答・解説		講　義

評価方法	客観試験　課題の提出
教科書	系統看護学講座　「精神看護学①　精神看護の基礎」　　医学書院 系統看護学講座　「精神看護学②　精神看護の展開」　　医学書院
参考書	講義の中で指示する
備　考	＊教科書を事前に読み予習しておく。講義後の内容は整理し復習しておく。

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●	●	

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	精神看護学援助論Ⅲ			担当講師	関　茂之		
分　野	専門	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1単位	時　間	30 時間	学　年	2年次	学　期	後期
概　要	心の問題や心の病気でケアを必要としている人は年々増加している。本科目では、精神症状をきたしながら生活をするとはどういったことか、そして対象とその家族にとって、どのような看護が必要かを学ぶ。さらに統合失調症をもつ人の特徴に合わせた看護過程の展開を学習する。						
到達目標	1. 精神症状に応じた対応の方法について理解する。 2. 精神に障害をもつ人とその家族の看護を理解する。 3. 統合失調症の事例を用いて精神を病む人の看護過程の展開を理解する。						

回	主題	内容	学習方法
1	リハビリテーション看護	作業療法、SSTを受ける人への支援	講義・演習
2	退院に向けての看護	社会資源活用に向けた支援 自己決定に向けた支援 服薬管理支援	講義・演習
3	精神障害者と家族	精神障害者の家族への支援	講　義
4	認知症・うつ病・せん妄と看護	認知機能低下を持つ人の生活支援	講　義
5		思考障害・注意障害を持つ人の生活支援	講　義
6		意欲低下・せん妄状態にある人の生活支援	講　義
7	セルフケアへの援助	呼吸、食事、排泄、清潔と身だしなみ 対人関係、安全	講義・演習
8	生きる力と強さ	レジリエンス、リカバリ（回復） ストレングス（強み、力）、エンパワメント	講義・演習
9	主な精神疾患の看護過程の展開	精神に障害をもつ人への看護過程の展開　PS「統合失調症」	講義・演習
10		精神に障害をもつ人への看護過程の展開　PS「統合失調症」	講義・演習
11		精神に障害をもつ人への看護過程の展開　PS「統合失調症」	講義・演習
12		精神に障害をもつ人への看護過程の展開　PS「統合失調症」	講義・演習
13		精神に障害をもつ人への看護過程の展開　PS「統合失調症」	講義・演習
14		精神に障害をもつ人への看護過程の展開　PS「統合失調症」	講義・演習
15	まとめ・終講試験／解答・解説		講　義

評価方法	客観試験　課題の提出
教科書	系統看護学講座　「精神看護学①　精神看護の基礎」　医学書院 系統看護学講座　「精神看護学②　精神看護の展開」　医学書院
参考書	講義の中で指示する
備　考	＊教科書を事前に読み予習しておく。講義後の内容は整理し復習しておく。

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
			●	●

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	医療安全			担当講師	皆川佳代子		
分　野	専門	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1単位	時　間	30 時間	学　年	2年次	学　期	後期
概　要	「看護の統合と実践」では、卒業後、臨床現場にスムーズに適応していけるように、各看護学で学んだ内容をベースに、臨床で実際に活用していくことを目標としている。本科目では、医療安全の必要性を理解し、臨床の場で求められる一定水準の注射技術等を安全かつ確実に提供できるよう、事故防止のための知識・技術を習得する。また、演習を通して、ハイリスク環境下での危険認識力と危険回避のための判断力を高め、臨床での卒後教育につなげていく。						
到達目標	1. 医療における安全管理の必要性を理解する。 2. 医療システムの中の危険要因を知り、医療事故防止のための知識・技術を習得する。 3. ハイリスク環境下で、安全な看護を提供するための判断力・実践力を養う。 4. 実践に即した技術演習を通して、専門職としての責任感と倫理感を身につける。						

回	主　題	内　容	学習法
1	医療安全とは	医療事故・看護事故の知識　～医療安全を学ぶ意義～	講　義
2	リスクマネジメント	事故を取り巻く状況の変化とリスクマネジメント	講　義
3	看護における医療事故と安全対策	看護業務上の事故の構造、事故防止の考え方 ～ヒューマンエラーとシステムエラー～	講　義
4	医療安全とコミュニケーション	事故防止のためのコミュニケーション	講義・演習
5	療養上の世話の事故防止（１）	危険予知トレーニングとは？ ～療養上の世話に潜む事故の実際～ （転倒・転落、異食、入浴）	講義・演習
6	診療の補助の事故防止（１）	注射業務、輸血、与薬、経管栄養 ～危険予知トレーニング～	講義・演習
7	診療の補助の事故防止（２）	チューブ管理（中心静脈ライン、気管チューブ、胸腔ドレーン等） ～危険予知トレーニング～	講義・演習
8	療養上の世話の事故防止の実際（１）	転倒・転落、異食、入浴	演　習
9	診療の補助の事故防止の実際（１）	注射業務、輸血、与薬、経管栄養	演　習
10	診療の補助の事故防止の実際（２）	チューブ類管理（中心静脈ライン、気管チューブ、胸腔ドレーン等）	演　習
11	組織的安全管理体制の取り組み（１）	事故報告とインシデント報告、事故事例分析	講義・演習
12	組織的安全管理体制の取り組み（２）	事故事例分析方法　ＳＨＥＬ分析、ＲＣＡ	講義・演習
13			
14	医療安全における倫理	看護師の倫理綱領から考える	演　習
15	まとめ・終講試験／解答・解説		講　義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座　統合分野　看護の統合と実践②　「医療安全」　医学書院
参考書	「医療安全ワークブック」　医学書院
備　考	

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●		●

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	看護の研究			担当講師	関　茂之		
分　野	専門	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1単位	時　間	30 時間	学　年	3年次	学　期	前期
概　要	本科目では、看護研究の意義や方法について学ぶ。また、ケーススタディの基礎を学ぶことで、看護専門職としての研究的態度を養う。						
到達目標	1.　看護研究の意義と必要性、方法を理解する。 2.　ケーススタディの基礎を理解する。						

回	主　題	内　容	学習方法
1	研究とは	看護研究における意義	講　義
2	看護における研究と課題	看護における研究の重要性・看護研究の特徴	講　義
3	看護研究における倫理	倫理規定・倫理的配慮	講　義
4	看護研究方法論（１）	研究課題の選択・概念枠組みの明確化	講　義
5	看護研究方法論（２）	研究の種類と方法の選定　研究デザイン	講　義
6	研究論文の構成要素と作成の基本ルール（１）	研究の進め方・研究課題の焦点	講　義
7	研究論文の構成要素と作成の基本ルール（２）	研究の枠組み設定・方法決定	講　義
8	看護研究における文献検索（１）	文献検索の意義、検索方法、文献の読み方（クリティーク）	講義・演習
9	看護研究における文献検索（２）	文献整理の方法、検討の構成と記述	講義・演習
10	看護研究の実際　ケーススタディの作成（１）	研究テーマの絞り込み、研究枠組みの決定	講義・演習
11	看護研究の実際　ケーススタディの作成（２）	研究計画の意義と計画書の作成	講義・演習
12	看護研究の実際　ケーススタディの作成（３）	研究データの収集と分析	講義・演習
13	看護研究の実際　ケーススタディの作成（４）	研究データの収集と分析	講義・演習
14	看護研究の実際　ケーススタディの作成（５）	研究論文の考察とまとめ	講義・演習
15	まとめ・終講試験／解答・解説		講　義

評価方法	レポート評価、客観試験
教科書	系統看護学講座　別巻「看護研究」　　医学書院
参考書	「看護学生のためのケース・スタディ」　　メヂカルフレンド社
備　考	ケーススタディの発表は、教科外活動として実施します。

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●	●	

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	災害看護・国際看護			担当講師	立川茂樹・佐井川まさ子・船橋悦子		
分　野	専門	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1単位	時　間	30 時間	学　年	3年次	学　期	前期
概　要	本科目では、準備期、災害直後、回復期にかけて支援できる看護の基礎的知識について理解する。 また、国際社会において広い視野に基づき、看護師として諸外国との協力を考えることができる 内容を学ぶ。						
到達目標	1. 災害医療・災害看護に関する基礎的知識・技術を習得する。 2. 災害時の応急処置の方法を理解する。 3. 国際社会での諸外国との協力について考察する。						

回	主　題	内　容	学習方法
1	災害看護の基礎知識（１）	災害看護の変遷・災害医療基礎知識	講　義
2	災害看護の基礎知識（２）	感染制御・トリアージ	講　義
3	災害時要援護者への理解とネットワーク	災害時要援護者への理解とネットワーク	講　義
4	災害時における看護の役割と活動内容（１）	災害時における初動期活動	講　義
5	災害時における看護の役割と活動内容（２）	災害時のトリアージ	演　習
6	災害時における看護の役割と活動内容（３）	応急処置・搬送技術①	講義・演習
7	災害時における看護の役割と活動内容（４）	応急処置・搬送技術②　避難所	演　習
8	災害時における看護の役割と活動内容（５）	災害時における急性期活動	演　習
9	災害時における看護の役割と活動内容（６）	災害における亜急性期・復旧復興期活動	講義・演習
10	被災者の心理・援助者の心理への理解と援助	被災者の心理・援助者の心理への理解と援助	講義・演習
11	国際看護学（１）	国際看護学とは	講　義
12	国際看護学（２）	多様な文化と看護	講　義
13	国際看護学（３）	多様な文化と看護	講　義
14	国際看護学（４）	海外における災害看護の課題	講　義
15	まとめ・終講試験／解答・解説		講　義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座　「看護の統合と実践③災害看護学・国際看護学」　医学書院
参考書	系統看護学講座　「看護学概論」　医学書院
備　考	

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●	●	●

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	看護管理と臨床看護の実践			担当講師	澁川悦子		
分　野	専門	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1単位	時　間	30 時間	学　年	3年次	学　期	前期
概　要	「看護の統合と実践」では、卒業後、臨床現場にスムーズに適応していけるように、各看護学で学んだ内容をベースに、臨床で実際に活用できることを目標としている。そのため本科目では、組織における看護師の役割を理解するとともに、チーム医療及び他職種との協働の中での看護のマネジメントを学ぶ。さらに、看護実践能力の強化を図るため、臨床の場に則した多重業務や流動的環境を設定した演習を行い、看護を実践する上でのマネジメント能力を養う。						
到達目標	1. 看護管理についての基礎的知識を習得し、組織の中での看護師の役割を理解する。 2. 他職種との協働の中での看護のマネジメントについて理解する。 3. 臨床の場に近い状況を設定し、複数の患者への看護のロールプレイを行い、優先すべき援助の判断やその対応を考える。 4. 統合的な看護援助技術の実践を通して、専門職としての責任感と倫理感を身につける。						

回	主　題	内　容	学習法
1	看護とマネジメント	看護管理とは	講　義
2	ケアのマネジメント（１）	ケアのマネジメント・安全管理	講　義
3	ケアのマネジメント（２）	チーム医療、看護職の協働・他職種との協働	講　義
4	看護サービスのマネジメント（１）	看護サービス・組織目標達成のためのマネジメント	講　義
5	看護サービスのマネジメント（２）	協働・情報・技術のマネジメント	講義・演習
6	臨床看護実践の特徴	チーム連携の基本 多重課題に伴う危険予知トレーニング コミュニケーションエラーの防止	講義・演習
7	臨床看護実践の特徴	多重課題の特徴と対応 リーダーシップ・ファロアーシップ 看護場面における優先順位と優先順位の判断	講　義
8	複数患者の援助計画の立案と実践	複数患者の行動計画の立案と実践 看護場面の状況変化での計画修正	演　習
9			
10	統合的な看護援助技術の実践（１）	客観的臨床能力試験（OSCE）実施のオリエンテーション 課題の提示、スケジュール・実施方法	講　義
11	統合的な看護援助技術の実践（２）	計画に基づいた統合的な看護技術の実際 客観的臨床能力試験（OSCE）での評価実施	演　習
12			
13			
14			
15	まとめ・終講試験／解答・解説		講　義

評価方法	客観試験（　　点）＋臨床客観試験（　　点）
教科書	系統看護学講座　統合分野　看護の統合と実践①　「看護管理」　　医学書院
参考書	
備　考	

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●	●	●

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	保健・医療・福祉援助論			担当講師	澁川悦子・高田久子・野口久美		
分　野	専門	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1単位	時　間	15 時間	学　年	2年次	学　期	後期
概　要	近年、我が国の超高齢社会到来とともに、地域包括ケアシステムを推進するうえで保健・医療・福祉の多職種連携の意義を理解し、多職種連携の協働・実践に活用できる基礎的能力が必要となる。本科目では、多職種連携教育（ＩＰＥ）を学習基盤とし地域包括ケアにおいての医療チームとしての多職種の役割を理解し、医療チームの一員としての看護師のあり方を学ぶ。						
到達目標	1. 地域包括ケアシステムにおける多職種連携・協働の概念やチームアプローチの関連概念について歴史的変遷と動向と共に理解できる。 2. 保健・医療・福祉チームの一員である看護師の役割が説明できる。 3. 保健・医療・福祉チームとしての多職種の職種及びその専門性と役割が説明できる。 4. 地域包括ケアシステムにおける、行政や地域包括支援センター、各種事業所などの連携が述べられる。 5. 各ライフサイクルの健康課題における保健・医療・福祉の具体的な連携が考えられる。						

回	主　題	内　容	学習方法
1	多職種連携・協働の基本	多職種連携・協働の必要性と機能	講　義
2	保健・医療・福祉チームにおける連携	看護師の役割と多職種の専門性と役割 （医師・薬剤師・栄養士・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・介護福祉士・介護支援専門員・社会福祉士）	講　義
3	保健・医療・福祉の連携を支える仕組み（１）	医療機関との連携 外来・病棟・退院支援部門との連携 地域連携クリニカルパス	講義・演習
4	保健・医療・福祉の連携を支える仕組み（２）	地域包括ケアシステムにおける連携	講義・演習
5	多職種連携・協働の実際	～実践課題及び対策の提案と実践～ 多職種協働の保健医療サービス事例から、多職種協働での当該課題を明確化・解決方法の展開	講義・演習
6			
7			
8	まとめ・終講試験／解答・解説		講　義

評価方法	客観試験　・レポート課題
教科書	健康支援と社会保障制度「社会保障・社会福祉」医学書院
参考書	
備　考	

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●	●	

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	薬物療法と看護			担当講師	船橋　悦子		
分　野	専門	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1単位	時　間	15 時間	学　年	2年次	学　期	前期
概　要	健康障害に応じた薬物療法の基礎知識と必要な看護援助を捉え、段階に応じた服薬指導を安全に実施するために必要な知識・技術・態度を身につける。また、患者の服薬アドヒアランスを向上できるような援助方法を考える。 薬物療法における看護師の役割を理解し、人体への薬物の働きかけや薬物に対する生体反応を捉える。						
到達目標	1. 薬物療法の基礎知識を理解し、必要な看護援助を実施する。 2. 薬物療法を受ける対象の不安を理解し安全・安楽に援助が実施できる。 3. 薬物の薬理学的作用・作用機序について理解し、アドヒアランスを向上する援助方法が考えられる。 4. 疾患の進行を抑え、身体症状を緩和するための援助方法が考えられる。						

回	主　題	内　容	学習方法
1	薬物療法における看護師の役割	社会背景の変化　看護師に求められる知識･技術	講　義
2	薬物動態の理解	年齢による薬物動態の特徴および観察の留意点	講　義
3			
4	事例に基づく薬物療法の実際（１）	周手術期の薬物管理の実際	講義･演習
5			
6	事例に基づく薬物療法の実際（２）	在宅における薬物管理の実際	講義･演習
7			
8	まとめ･終講試験／解答･解説		講　義

評価方法	客観試験
教科書	
参考書	
備　考	アクティブラーニングでのグループ学習をおこなう。

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●	●	

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	終末期と看護			担当講師	佐藤　絹代		
分　野	専門	授業方法	講義	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1単位	時　間	30 時間	学　年	2年次	学　期	後期
概　要	死が間近に迫り、身体の変化が不可逆的になると、病気治療よりも患者の感じる全人的苦痛を緩和し、対象のQOLを考えながら、今をどう生きるのか、その人らしさや自律性をもった個人として生きる権利を守るための関わりが重要になる。 本科目では、各期における終末期の特徴や対象の苦痛を理解し、看護の基盤となる症状緩和のための知識やケアの方法などを学び、人生の最後の時を迎える対象の援助の必要性を深める内容とする。						
到達目標	1. 終末期にある対象の身体的・精神的・社会的・霊的な特徴（苦痛）を理解する。 2. 対象のQOLの維持・向上を目指した援助方法、緩和ケアについて理解する。 3. エンド・オブ・ライフケアについて考えることができる。 4. 死のプロセスを理解し、受容段階や症状に応じた看護を理解する。 5. 終末期にある患者の家族の特徴を理解し、家族への支援を理解する。						

回	主　題	内　容	学習方法
1	終末期にある患者および家族の理解	終末期にある人の身体的・精神的・社会的・霊的な特徴	講　義
2	終末期にある対象の理解	・成人期における終末期の特徴と看護 ・老年期における終末期の特徴と看護 ・在宅における終末期の特徴と看護	講　義
3			
4			
5	緩和ケア	・緩和ケアとは ・緩和ケアを必要とする対象の理解 ・全人的苦痛の理解	講　義
6	緩和ケア	・エンド・オブ・ライフケア 疾病の診断・告知の場面 老いや障害の自覚等	講義・演習
7			
8	緩和ケアの実際	・スピリチュアルペイン、セデーション ・身体徴候のアセスメントと援助 ・症状のマネジメントの実際　癌性疼痛の緩和ケア ・症状のマネジメントの実際　呼吸困難時のケア ・症状のマネジメントの実際　倦怠感、苦痛緩和のケア	講義・演習
9			
10			
11	死の受容	・成人期・老年期における死の捉え方 ・グリーフケア ・臨終時の看護、臨死期の看護 ・看取り、家族の心理・家族ケア ・気持ちにより寄り添うコミュニケーション ・自宅で死を迎えることの意味	講義・演習
12			
13			
14	看取りのケア	エンゼルケアの実際	講義・演習
15	まとめ・終講試験／解答・解説		講　義

評価方法	客観試験
教科書	系統看護学講座　別巻「緩和ケア」　医学書院 終末期看護「エンド・オブ・ライフ・ケア」　メヂカルフレンド社
参考書	

備　考	

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●	●	●

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	基礎看護学実習Ⅰ			担当講師	学科専任教員・実習指導教員・臨地実習指導者		
分　野	専門	授業方法	実習	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	1 単位	時　間	45 時間	学　年	1年次	学　期	前期・後期
概　要	健康障害をもつ人を理解し、状態に応じた看護を実施するために、１年次前期では、療養の場である病院見学を通し、療養環境や看護師の役割を学ぶ。１年次後期では、健康障害をもつ人の日常生活援助の実施を通し、援助の実際を学ぶ。						
到達目標	1. 健康障害をもつ対象の療養環境を説明する。 2. 日常生活環境と療養環境の違いを説明する。 3. 療養生活を送る対象の気持ちを表現する。 4. 看護の実際を見学し、看護師の役割を考える。 5. コミュニケーションを通し対象の気持ちを考える。 6. 意図的に必要な情報を収集する。 7. 対象に必要な日常生活の援助計画を立案する。 8. 対象の安全安楽を考慮した日常生活援助を実施する。 9. 実施した日常生活援助を振り返り修正する。 10. 学習者として責任ある態度を表現する。						

時間	授　業　計　画　・　内　容
15	12時間（6時間×2日）の臨地実習と、3時間（1日）の学内実習で構成される。 健康障害をもつ対象の療養生活を理解するとともに、看護の実際を知る。
30	24時間（6時間×4日）の臨地実習と、6時間（1日）の学内実習で構成される。 健康障害をもつ対象の日常生活に必要な援助を実施するための基礎的な知識・技術・態度を養う。

評価方法	実習中は担当教員及び臨地実習指導者が援助状況を観察し、提出された記録物を確認する。 実習後に担当教員が実習評価表を用いて総括的評価を行う。
教科書	
参考書	
備　考	

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●	●	●

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	基礎看護学実習Ⅱ			担当講師	学科専任教員・実習指導教員・臨地実習指導者		
分　野	専門	授業方法	実習	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	2 単位	時　間	90 時間	学　年	2年次	学　期	前期
概　要	対象の基本的ニードを捉え看護過程を展開するために必要な知識・技術・態度を養う。						
到達目標	1. 対象の情報を、意図的・系統的に収集しアセスメントする。 2. 適切な看護診断名を選択する。 3. 看護計画を立案する。 4. 看護計画に基づいて援助を実施する。 5. 看護計画の評価・修正をする。 6. 看護援助を通し、良好な関係性を築く。 7. 他職種との連携の重要性が述べられる。 8. 学習者として責任ある態度を表現する。						

時間	授　業　計　画　・　内　容
90	70時間（7時間×10日）の臨地実習と、20時間（3日）の学内実習で構成される。 健康障害をもつ対象の看護過程の展開方法を学ぶ。

評価方法	実習中は担当教員及び臨地実習指導者が援助状況を観察し、提出された記録物を確認する。 実習後に担当教員が実習評価表を用いて総括的評価を行う。
教科書	
参考書	
備　考	

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●	●	●

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	地域・在宅看護論実習			担当講師	学科専任教員・実習指導教員・臨地実習指導者		
分　野	専門	授業方法	実習	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	2 単位	時　間	90 時間	学　年	3年次	学　期	前期または後期
概　要	地域包括ケアシステムの考え方を基盤に、地域で暮らす人々および在宅療養者とその家族を対象とした看護を学ぶとともに、地域で暮らす人々の健康な暮らしを支える社会資源について学ぶ。						
到達目標	1. 地域で暮らす人々の健康ニーズや健康課題を述べる 2. 地域で療養する人々とその家族の健康状態、生活状況を述べる 3. 地域包括ケアシステムにおける看護職の役割を述べる 4. 地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関との連携・協働を理解する 5. 在宅療養の対象が自立に向けた生活を送るための援助を実施する 6. 人々の健康な暮らしを支える社会資源の活用を説明する 7. 学習者として責任ある態度を表現する						

時間	授　業　計　画　・　内　容
90	63時間（7時間×9日）の臨地実習と、27時間（4日）の学内実習で構成される。 地域包括ケアシステムの考え方を基盤に、地域で暮らす人々および在宅療養者とその家族を対象とした看護を学ぶ。

評価方法	実習中は担当教員及び臨地実習指導者が援助状況を観察し、提出された記録物を確認する。 実習後に担当教員が実習評価表を用いて総括的評価を行う。
教科書	
参考書	
備　考	

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●	●	●

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	成人・老年看護学実習Ⅰ			担当講師	学科専任教員・実習指導教員・臨地実習指導者		
分　野	専門	授業方法	実習	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	2 単位	時　間	90 時間	学　年	2年次	学　期	後期
概　要	健康障害を持ちながら生活する慢性期にある対象の、セルフマネジメントに向けた看護過程の展開を実践するとともに、対象に必要な社会生活継続のための社会資源の活用について学ぶ。						
到達目標	1. 慢性期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を述べる。 2. 対象の健康障害が日常生活に及ぼす影響を述べる。 3. セルフマネジメントが必要な対象の看護過程を展開する。 4. セルフマネジメントに向けた援助を実施する。 5. 社会生活継続のために必要な社会資源を述べる。 6. 学習者として責任ある態度を表現する。						

時間	授　業　計　画　・　内　容
90	63時間（7時間×9日）の臨地実習と、27時間（4日）の学内実習で構成される。 健康障害を持ちながら生活する対象の、セルフマネジメントに向けた看護を学ぶ。

評価方法	実習中は担当教員及び臨地実習指導者が援助状況を観察し、提出された記録物を確認する。 実習後に担当教員が実習評価表を用いて総括的評価を行う。
教科書	
参考書	
備　考	

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●	●	●

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	成人・老年看護学実習Ⅱ			担当講師	学科専任教員・実習指導教員・臨地実習指導者		
分　野	専門	授業方法	実習	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	2 単位	時　間	90 時間	学　年	3年次	学　期	前期または後期
概　要	急性期にある対象を理解し、回復過程を支援する看護を実践するための基礎的知識と技術を養う。						
到達目標	1. 健康の危機状況にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を説明する 2. 健康障害や侵襲が対象に及ぼす影響を説明する 3. 健康危機状況に応じた看護過程を展開する 4. 対象の回復過程に合わせた援助を実施する 5. 健康危機状況にある対象とその家族に必要な援助を説明する 6. 学習者として責任ある態度を表現する						

時間	授　業　計　画　・　内　容
90	70時間（7時間×10日）の臨地実習と、20時間（3日）の学内実習で構成される。 急性期にある対象の、回復過程を支援する看護を学ぶ。

評価方法	実習中は担当教員及び臨地実習指導者が援助状況を観察し、提出された記録物を確認する。 実習後に担当教員が実習評価表を用いて総括的評価を行う。
教科書	
参考書	
備　考	

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●	●	●

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	成人・老年看護学実習Ⅲ			担当講師	学科専任教員・実習指導教員・臨地実習指導者		
分　野	専門	授業方法	実習	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	2 単位	時　間	90 時間	学　年	3年次	学　期	前期または後期
概　要	回復期にある対象の、リハビリテーション及びセルフケア再獲得のための看護を実践するとともに、社会復帰に向けたチームアプローチにおける看護師の役割について学ぶ。						
到達目標	1. 障害をもつ対象の身体的・精神的・社会的特徴を説明する 2. 対象のセルフケア能力をアセスメントし、日常生活への影響を説明する 3. 対象のセルフケア再獲得のための看護過程を展開する 4. 対象のセルフケア再獲得に向けた援助を実施する 5. 社会復帰に向けたチームアプローチにおける看護の役割を述べる 6. 学習者として責任ある態度を表現する						

時間	授　業　計　画　・　内　容
90	70時間（7時間×10日）の臨地実習と、20時間（3日）の学内実習で構成される。 障害を持つ対象の、リハビリテーション及びセルフケア再獲得のための看護を学ぶ。

評価方法	実習中は担当教員及び臨地実習指導者が援助状況を観察し、提出された記録物を確認する。 実習後に担当教員が実習評価表を用いて総括的評価を行う。
教科書	
参考書	
備　考	

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●	●	●

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	成人・老年看護学実習Ⅳ			担当講師	学科専任教員・実習指導教員・臨地実習指導者		
分　野	専門	授業方法	実習	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	2 単位	時　間	90 時間	学　年	3年次	学　期	前期または後期
概　要	終末期にある対象の、健康障害によって生じる課題に対処しながら最期の瞬間までよりよく生きることを目指した看護を実践するとともに、終末期にある対象の家族への支援について学ぶ。						
到達目標	1. 終末期にある対象の身体的・精神的・社会的変化の特徴を説明する 2. 終末期にある対象の健康障害が対象の日常生活・QOLに及ぼす影響を説明する 3. 終末期にある対象のQOLを高める支援を実施する 4. 終末期にある対象の家族への支援を述べる 5. 学習者としての責任ある態度を表現する						

時間	授　業　計　画　・　内　容
90	70時間（7時間×10日）の臨地実習と、20時間（3日）の学内実習で構成される。 終末期にある対象の、健康障害によって生じる課題に対処しながら最期の瞬間までよりよく生きることを目指した看護を学ぶ。

評価方法	実習中は担当教員及び臨地実習指導者が援助状況を観察し、提出された記録物を確認する。 実習後に担当教員が実習評価表を用いて総括的評価を行う。
教科書	
参考書	
備　考	

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●	●	●

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	老年看護学実習			担当講師	学科専任教員・実習指導教員・臨地実習指導者		
分　野	専門	授業方法	実習	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	2 単位	時　間	90 時間	学　年	2年次	学　期	後期
概　要	老年期にある対象の身体的、精神的、社会的特徴をとらえ、その人の日常生活援助に必要な基礎的知識・技術・態度を養う。						
到達目標	1. 高齢者の身体的・精神的・社会的変化の特徴を述べる。 2. 対象の加齢に伴う変化が日常生活に及ぼす影響を説明する。 3. 対象の生活史を把握し、その人らしい生活の工夫を述べる。 4. 対象を尊重した自立と安全の両立を図る援助を実施する。 5. 対象の生活の場である各施設の役割と特徴を説明する。 6. 学習者としての責任ある態度を表現する。						

時間	授　業　計　画　・　内　容
90	70時間（7時間×10日）の臨地実習と、27時間（3日）の学内実習で構成される。 高齢者施設で生活する対象から、老年期の特徴を捉え、対象に合わせた日常性津援助について学ぶ。

評価方法	実習中は担当教員及び臨地実習指導者が援助状況を観察し、提出された記録物を確認する。 実習後に担当教員が実習評価表を用いて総括的評価を行う。
教科書	
参考書	
備　考	

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●	●	●

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	小児看護学実習			担当講師	学科専任教員・実習指導教員・ 臨地実習指導者		
分　野	専門	授業方法	実習	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	2 単位	時　間	90 時間	学　年	3年次	学　期	前期または後期
概　要	あらゆる成長発達・健康レベルにある子どもとその家族に応じた看護を学ぶとともに、子どもをめぐる保健・医療・福祉・教育の機能と連携の必要性について学ぶ。						
到達目標	1. 子どもの成長発達の特徴を述べる 2. 子どもの成長発達に応じた必要な援助を実施する 3. 子どもをめぐる保健・医療・福祉・教育の機能と連携の必要性を説明する 4. 小児看護の役割を説明する 5. 学習者として責任ある態度を表現する						

時間	授　業　計　画　・　内　容
90	49時間（7時間×7日）の臨地実習と、41時間（6日）の学内実習で構成される。 あらゆる成長発達・健康レベルにある子どもとその家族に応じた看護を学ぶ。

評価方法	実習中は担当教員及び臨地実習指導者が援助状況を観察し、提出された記録物を確認する。 実習後に担当教員が実習評価表を用いて総括的評価を行う。
教科書	
参考書	
備　考	

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●	●	●

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	母性看護学実習			担当講師	学科専任教員・実習指導教員・臨地実習指導者		
分　野	専門	授業方法	実習	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	2 単位	時　間	90 時間	学　年	3年次	学　期	前期または後期
概　要	周産期にある対象をリプロダクティブヘルス／ライツに視点をもち、子育て世代の特徴と取り巻く環境をとらえ、母子とその家族への看護を実施する為の基礎的知識と技術・態度を養う。						
到達目標	1. 母子の継続看護の必要性を述べる 2. 周産期にある母子の特徴と看護の特殊性を述べる 3. 周産期にある対象と家族の健康状態をアセスメントし必要な援助を実施する 4. 周産期にある母子をとりまく環境の実際や社会資源の活用方法を説明する 5. 学習者として責任ある態度を表現する						

時間	授　業　計　画　・　内　容
90	56時間（7時間×8日）の臨地実習と、34時間（5日）の学内実習で構成される。 周産期にある対象の、子育て世代の特徴と取り巻く環境をとらえ、母子とその家族への看護を学ぶ。

評価方法	実習中は担当教員及び臨地実習指導者が援助状況を観察し、提出された記録物を確認する。 実習後に担当教員が実習評価表を用いて総括的評価を行う。
教科書	
参考書	
備　考	

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●	●	●

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	精神看護学実習			担当講師	学科専任教員・実習指導教員・臨地実習指導者		
分　野	専門	授業方法	実習	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	2 単位	時　間	90 時間	学　年	3年次	学　期	前期または後期
概　要	精神に健康障害を持つ対象の、個別に応じた看護を実施するために必要な知識・技術・態度を養うとともに社会復帰を目指す対象への必要な支援について学ぶ。						
到達目標	1. 精神医療の実際から治療的環境を説明する 2. 対象の日常生活の自律に向けた看護を実施する 3. 対象との関わりを通し自らの振り返りをする 4. 社会復帰を目指す対象に必要な支援を実施する 5. 対象を尊重した態度を表現する 6. 学習者として責任ある態度を表現する						

時間	授　業　計　画　・　内　容
90	70時間（7時間×10日）の臨地実習と、20時間（3日）の学内実習で構成される。 精神に健康障害を持つ対象の、個別に応じた看護を学ぶ。

評価方法	実習中は担当教員及び臨地実習指導者が援助状況を観察し、提出された記録物を確認する。 実習後に担当教員が実習評価表を用いて総括的評価を行う。
教科書	
参考書	
備　考	

2024年度　講義要項（授業計画）

学修成果	ディプロマポリシー			
	1	2	3	4
	●	●	●	●

実務経験のある教員等による授業科目	☑

科目名	看護の統合と実践実習			担当講師	学科専任教員・実習指導教員・ 臨地実習指導者		
分　野	専門	授業方法	実習	実務経験	看護師としての実務経験		
単位数	2 単位	時　間	90 時間	学　年	3年次	学　期	後期
概　要	看護のマネジメントを実施するために必要な基礎的知識・技術・態度を学ぶとともに医療チームの一員としての看護について学ぶ。						
到達目標	1. 組織における病棟管理・看護管理の実際および看護の役割と機能を述べる 2. 看護実践に必要な知識・技術を統合し、複数の対象者の看護を展開する 3. 複数の対象者の時間管理・優先順位を決定し、看護を実施する 4. 多重課題の中で医療安全を意識した看護を実践する 5. 医療チーム一員としての多職種連携・協働の看護を展開し、実践する 6. 学習者としての責任感・倫理的態度を表現する						

時間	授　業　計　画　・　内　容
90	75時間（7.5時間×10日）の臨地実習と、15時間（2日）の学内実習で構成される。 精神に健康障害を持つ対象の、個別に応じた看護を学ぶ。

評価方法	実習中は担当教員及び臨地実習指導者が援助状況を観察し、提出された記録物を確認する。 実習後に担当教員が実習評価表を用いて総括的評価を行う。
教科書	
参考書	
備　考	